《専門教育科目》

科目名	宗教と人生			科目ナンバリング	BFOL11001
担当者氏名	本多　彩			担　当　形　態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2　・　必	開講年次・開講期	1　年　・　Ⅰ期

《授業の概要》
本講義では、兵庫大学の「建学の精神」と仏教について理解を深める。また宗教へ多角的にアプローチすることによって宗教に対する理解を進める。この場合の宗教とは、制度化された体系だけを指すのではなく、宗教心や宗教性も含んだ広義の宗教である。さらに、いくつかの宗教（特に仏教）の体系を知ることによって、“価値”や“意味”といった計量化できない問題に取り組む力を養う。

《テキスト》
購入するテキストはないが、「ぷんだりーか」を準備しておくこと。
講義は配布プリントを中心に進める。

《参考図書》
『仏教聖典』

《授業外学習》
建学の精神に関連する宗教行事への積極的な参加（参加は受講態度として評価する）
定例礼拝　毎週水曜日　12時15分～
宗教セミナー
宗教ツアー
花まつり法要　など
身の回りの「宗教的なもの」をさがしてみよう。
仏教の本を読んでみよう。

《学習状況・理解度の確認》
分からないことは、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》
科目担当者は、浄土真宗本願寺派の僧侶である。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
○	1-1 自己や他者を理解する力	さまざまな宗教や仏教を通して異文化や他者理解を促進することができる。
◎	1-2 感謝しながら共生・協働できる力	建学の精神の理解を深め、説明できる。
○	2-1 多様な見方や考え方ができる力	日常生活領域にある宗教を通し人間や世界や生死を理解して社会の様々な課題を仏教という視点で捉え説明できる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試　　験	50
小テスト	0
レポート	0
発表・実技	0
授業内課題	20
その他（講義内回答）	30
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習･復習等の内容	予習･復習等の時間
1	宗教とは何か	誤解されがちな宗教についてその機能を理解し説明することができる。	身の回りにある宗教を調べる	45
2	宗教の類型	分布や特徴によって分けられる宗教の類型を理解し説明することができる。	配布プリントを復習	45
3	世界の宗教：諸宗教の価値体系と意味体型	世界の諸宗教がもつ価値観を学び、その多様性について理解し説明することができる。	世界の宗教について調べる	60
4	建学の精神①：学内宗教ツアー	学内の宗教施設をめぐるという体験を通して各施設の説明をすることができるようになり、建学の精神への理解を進める。	「ぷんだりーか」p. 7-12	45
5	建学の精神②	建学の精神に深く関連する聖徳太子と仏教について学び説明することができる。	「ぷんだりーか」p. 1-6	45
6	キリスト教を知る①	キリスト教の歴史や教えを学びその特徴を説明することができる。	キリスト教について調べる	60
7	キリスト教を知る②	キリスト教が現代社会に与えた影響とユダヤ教について学び説明することができる。	配布プリント復習	45
8	イスラームを知る	イスラームの歴史や教えを学びその特徴を説明することができる。	イスラームについて調べる	60
9	仏教を知る①	建学の精神にある仏教について、釈尊の生涯とその教えを理解し説明することができる。	配布プリント復習	45
10	仏教を知る②	初期仏教の展開と社会とのかかわりについて学び説明することができる。	『仏教聖典』「ほとけ」精読	120
11	仏教を知る③	大乗仏教の広がりと特徴について理解し説明することができる。	『仏教聖典』「ほとけ」精読	120
12	日本の仏教を知る①	日本仏教の特徴と展開について理解し説明することができる。	仏教の本を一冊読む	120
13	日本の仏教を知る②	日本の浄土系仏教の流れと教え、本学との関連について理解し説明することができる。	配布プリント復習	45
14	建学の精神③	兵庫大学の建学の精神について理解を深め共有し説明することができる。	「和」と仏教についてまとめる	90
15	建学の精神④　まとめ	兵庫大学の学生としての誇りを持ち、本学の建学の精神や宗教、仏教について説明することができる。	授業内容の整理とまとめ	90

《専門教育科目》

科目名	コンピュータ演習			科目ナンバリング	BCOS11010
担当者氏名	榎木　浩			担　当　形　態	クラス分け
授業方法	演習	単位・必選	2　・　必	開講年次・開講期	1　年　・　Ⅰ期

《授業の概要》
本学計算機実習室の計算機を使うための基礎的な知識や技術を学習します。また、情報化社会の基盤である「コンピュータ・ネットワーク」の利用に際して、その利便性や危険性など情報化社会で必要不可欠な「情報倫理」などの知識も修得します。

《授業外学習》
e-ラーニングで配付する資料は期終了まで自由に閲覧できるため、事前事後に配付資料を熟読し理解を深めて下さい。課題作成は授業時間内を基本としますが、不足分は時間外学習で作成してe-ラーニングで提出してください。

《テキスト》
毎回授業で資料を配布します。
資料は事前に閲覧できます。

《学習状況・理解度の確認》
課題の提出状況と課題内容を総合的に評価します。
e-ラーニングで提出した課題についてコメントを付ける。

《参考図書》
必要に応じて紹介します。

《備考》
道具としてのコンピュータをうまく使いこなせ、ネットワークでモラルをもって行動できることを望む。科目担当者は、実務経験者（情報通信関連企業及び研究所の勤務歴有り）である。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
○	1-3 コミュニケーション力	情報倫理に従いコンピュータネットワークで行動できる。
◎	1-4 情報を収集、処理、発信できる力	電子メール、情報検索、文書作成、表計算、プレゼンテーションソフトの各操作が行え活用できる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試　　験	0
小テスト	0
レポート	0
発表・実技	0
授業内課題	75
その他（ｱﾁｰﾌﾞﾒﾝﾄﾃｽﾄ）	25
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習･復習等の内容	予習･復習等の時間
1	オリエンテーション	授業の内容説明、計算機実習室利用のための手続きと初期設定（パソコン、電子メール、e-ラーニングなど）	利用方法の確認	45
2	Windows操作と電子メールの活用	Windows端末の基礎操作、電子メールの送受信、メールの本文やマナー	課題提出	45
3	情報モラル	情報倫理と情報セキュリティ、情報倫理に従ったネットワークでの行動を事例により学習	課題提出	45
4	コンピュータの基礎知識	コンピュータの歴史、ハードウェア、ＯＳ、アプリケーションソフト、情報理論を簡単に説明	課題提出	45
5	Webとネットサービスの活用	Webブラウザの操作方法、WebページとHTML、WebサーバーとHTTP、検索サイトを使った情報収集	課題提出	45
6	情報の利活用：文書作成	文書作成ソフト（MS Word）の基本操作（文書校正、段落番号、箇条書き、書式設定）	課題提出	45
7	情報の利活用：文書作成	ヘッダーとフッター、表・図・写真の挿入、図形描画の操作	課題提出	45
8	情報の利活用：文書作成	習得した機能を全て用いて、ビジネス文書を作成する。	課題提出	45
9	情報の利活用：プレゼンテーション	プレゼンテーションソフト（MS PowerPoint）の基本操作（スライドの作成、文字の入力、図・画像などの挿入、図形描画）	課題提出	45
10	情報の利活用：プレゼンテーション	スライドの組み立て、デザイン・フォント、ヘッダーとフッター、スライドショー、印刷の各操作と企画シートに従ったスライドの作成	課題提出	45
11	情報の利活用：プレゼンテーション	作成したパワーポイント資料を発表し、相互評価を行う。	課題提出	45
12	情報の利活用：表計算	表計算ソフト（MS Excel）の基本操作、編集操作（データ入力、行と列の操作、ヘッダーとフッター、ページレイアウト）	課題提出	45
13	情報の利活用：表計算	データをもとに主な関数を操作（合計、四則演算、平均、カウント）とグラフ作成（折れ線、棒、円、横棒）	課題提出	45
14	情報の利活用：表計算	相互参照と絶対参照、ＩＦ関数の操作、習得した機能を活用した総合課題	課題提出	45
15	まとめ	到達度確認とまとめ	最終課題提出	45

《専門教育科目》

科目名	建築デザインと地域			科目ナンバリング	BL0L21002
担当者氏名	稲冨　恭			担　当　形　態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2　・　選	開講年次・開講期	1　年　・　Ⅱ期

《授業の概要》
建築・土木構造物(以下、建築)は気候、歴史、宗教、産業といった多くの要素と密接に関係している。本講義では、兵庫県内の建築を通じて、地域社会、文化、歴史について考察する。

《授業外学習》
○受講生は授業内容に沿って、地域の建築を見学しレポートにまとめる。
○身の回りの建築に積極的に目を配り、気になった建築について記録する。

《テキスト》
テキストは用いない。毎回、資料を配付する。

《学習状況・理解度の確認》
授業内課題は、コメントを付して返却する。
学科末のレポート課題は講評会を実施し、解説を行う。

《参考図書》
「昔も今もこれからも　兵庫を築く」兵庫県建設業協会,2013

《備考》
○授業態度によって出席を取り消す場合がある。座席の指定を行う場合がある。○授業内課題の発表・プレゼンテーションを行う。○授業担当者は建築設計の実務経験を有する

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	2-2 社会や文化について理解する力	近畿地方(主として兵庫県内)の都市・建築を例に、地域の歴史と建築の関わりについて理解できる。
○	2-3 自然や科学について理解する力	デザイン、機能、構造、設備といった面から建築を理解できる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試　験	0
小テスト	0
レポート	30
発表・実技	0
授業内課題	70
その他（ ）	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習･復習等の内容	予習･復習等の時間
1	ガイダンス	兵庫県の建築・土木構造物(以下、建築)について概観する。建築と地域環境の関わりについて理解する。	身の回りの建築をレポートする	45
2	古代の兵庫県と人々のくらし(1)	大中遺跡、五色塚古墳等をとりあげ、縄文時代、弥生時代の建築と生活について理解する。	身の回りの建築をレポートする	45
3	神道の成立と神社建築(1)	大神神社、伊勢神宮、出雲大社等をとりあげ、神道の成立と神社建築の系譜、神社がもつ社会的機能について考察する。	地域の神社をレポートする	90
4	神道の成立と神社建築(2)	西宮神社、長田神社、湊川神社等をとりあげ、神社建築の形式と技術について考察する。上の宮五社大神社を見学する。	身の回りの建築をレポートする	45
5	仏教の伝来と寺院建築(1)	法隆寺、東大寺、一乗寺をとりあげ、仏教と寺院建築の歴史について理解する。	身の回りの建築をレポートする	45
6	仏教の伝来と寺院建築(2)	一乗寺、浄土寺、鶴林寺を取り上げ、和様、大仏様、禅宗様、折衷様といった寺院建築の形式について理解する。	地域の仏教寺院をレポートする	90
7	仏教の伝来と寺院建築(3)	寺院建築・神社建築等を例に、伝統的木造建築の工法について理解する。	身の回りの建築をレポートする	45
8	幕藩体制と城郭建築、城下町	姫路城、明石城を取り上げ、江戸時代の城郭建築と都市の形成について理解する。	身の回りの建築をレポートする	45
9	和風住宅の系譜と生活の歴史	篠山城大書院、旧木下家住宅を取り上げ、寝殿造り、書院造り、数寄屋風書院造りといった和風住宅の系譜について理解する。	身の回りの建築をレポートする	45
10	民家の歴史と技術	箱木家住宅、永富家住宅を取り上げ、民家建築の歴史と形式について考察する。	身の回りの建築をレポートする	45
11	西洋古典建築の系譜と神戸の近代建築	ギリシア・ローマ建築の系譜について概観し、神戸旧居留地の近代建築について理解する。	地域の近代建築をレポートする	90
12	阪神間モダニズム	ライト、ヴォーリズ等の建築を取り上げ、モダニズム建築の系譜について概観し、阪神間モダニズムについて理解する。	課題レポートの作成	90
13	ポストモダニズム社会と建築	F・ゲーリー、安藤忠雄等の建築を取り上げ、ポストモダン建築の思想的背景と表現について考察する。	課題レポートの作成	90
14	阪神大震災と今後の防災	阪神大震災とその後の対応、今後起こりうる自然災害について、建築、まちづくりの面から考察する。	課題レポートの作成	90
15	レポート発表	課題レポートの発表と講評を行う。	課題レポートの作成	60

《専門教育科目》

科目名	法と社会			科目ナンバリング	BS0L21002
担当者氏名	豊福　一			担　当　形　態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2　・　選	開講年次・開講期	1　年　・　Ⅱ期

《授業の概要》
No.00117　日常生活（主に社会に出てからの生活）において、問題となりやすい事項や人生のうちにほとんどの人が経験する事項をテーマとして取り上げ、それに関係する法律問題を具体的事例をもとに解説していきます。

《授業外学習》
特に指定しませんが、授業の中で適宜指示します。

《テキスト》
「新時代の法学と憲法」建帛社

《学習状況・理解度の確認》
レポートについては、適宜その結果について講評を行う。また、随時授業終了後に質問を受け付ける。

《参考図書》

《備考》
科目担当者は実務経験者であり、平成１７年より弁護士として法律事務所にて執務。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	2-1 多様な見方や考え方ができる力	法律が関係するような場面に遭遇した際、法律の規定に沿った大まかな方向性を持つことができるようになること。
○	2-2 社会や文化について理解する力	法の成り立ちや意義を理解すること。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試　　験	100
小テスト	0
レポート	0
発表・実技	0
授業内課題	0
その他（ ）	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習･復習等の内容	予習･復習等の時間
1	法の種類と権利の主体（導入）	法制度の概要、民事と刑事の区別、権利義務の主体等。	任意	45
2	契約（消費貸借）	お金を業者（銀行を含む）から借りるということの法律的な意味、借り方の種類や方法。	任意	45
3	契約（住宅ローン①）	住宅ローンの仕組み、不動産登記制度の概要。	任意	45
4	契約（住宅ローン②）	住宅ローンを組む際に決めるべき法的な事項、自動車ローンの仕組み。	任意	45
5	債務の整理・清算	借金を返せなくなった際に行う債務整理の方法（主に自己破産の仕組み）。	任意	45
6	手形・小切手	約束手形・小切手の仕組み（主に約束手形の振出、裏書譲渡）。	任意	45
7	商法・会社法	株式会社の仕組みとその運営。	任意	45
8	保険制度	生命保険・火災保険・傷害保険・自動車保険の仕組み。	任意	45
9	紛争解決（民事訴訟制度）	民事訴訟の基本的な流れとその概要。	任意	45
10	紛争解決（強制執行）	不動産や預金の差押の手続きの流れとその仕組み。	任意	45
11	紛争解決（交通事故）	交通事故に遭った際に取り決めるべき内容、損害賠償として請求できる内容。	任意	45
12	刑事法①	容疑者が逮捕されて起訴されるまでの流れ。	任意	45
13	刑事法②	容疑者が起訴されて刑罰を科されるまでの流れ。	任意	45
14	知的財産権	著作権、特許権、商標権等の知的財産権の概要。	任意	45
15	諸法	マンションの法律関係、失踪宣告の制度等。	任意	45

《専門教育科目》

科目名	化学			科目ナンバリング	BNAL21003
担当者氏名	阿部　真幸			担　当　形　態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2　・　選	開講年次・開講期	1　年　・　Ⅰ期

《授業の概要》
化学は個々の化合物の性質や構造、反応の様子を明らかにする学問であり、食品や健康、医療や看護に関わりの深い学問です。専門領域に関連する学問を本格的に学ぶ前に、その基礎となる化学的知識を、一年次における導入として解説します。
私たちの身の回りの物質と化学知識のつながりを通して、物質を科学的に見る眼を養って欲しいと考えます。

《授業外学習》
○授業前に、テキストとプリントの学習する範囲を読み、専門用語の意味を理解しておくこと。
○授業内容の要点をまとめる、演習問題を解く、など、授業の復習を行い、理解に努めること。

《テキスト》
『コ・メディカル化学』
齋藤勝裕、荒井貞夫、久保勘二 共著（裳華房）

《学習状況・理解度の確認》
○小テストを行い学習内容の定着を図る。　小テストは返却し、フィードバックを行う。
○必要に応じて、理解度を確認できるように演習問題を配布する。

《参考図書》
『ビギナーズ有機化学』（化学同人）
『からだの中の化学』（丸善出版）

《備考》
○他の履修者に迷惑になる行動（特に、私語）はしない。
科目担当者は、㈱カネカ・バイオテクノロジー開発研究所の元研究員である実務教員

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	2-3 自然や科学について理解する力	○食品の劣化、生体で起こっている反応、など、身近な現象を化学的に考えることができる。
		○栄養素など、生体に関わりのある化合物の働きを説明できる。
○	2-1 多様な見方や考え方ができる力	○溶液の濃度を理解している。 ○（有機）化学反応式の意味を理解している。
		○代表的なアルキル基と官能基について構造と特徴を説明できる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試　　験	80
小テスト	20
レポート	0
発表・実技	0
授業内課題	0
その他（ ）	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習･復習等の内容	予習･復習等の時間
1	化学で扱う数値 原子の構造	物理量と単位 原子の構造、原子の電子構造、周期表と元素	テキスト p. 2～p. 22	45
2	化学結合と分子	イオン結合、共有結合、結合の極性、水素結合	テキスト p. 23～p. 33	45
3	物質の量と状態	原子量と分子量、モル、パーセント濃度、モル濃度	テキスト p. 35～p. 47	45
4	酸・塩基と酸化・還元	酸と塩基の定義、中和反応と塩の生成、水素イオン濃度とｐH、 酸化と還元、酸化・還元反応	テキスト p. 57～p. 65	90
5	有機化合物の構造（1）	有機化合物の結合、炭化水素の種類、構造式の表示法	テキスト p. 70～p. 73	45
6	有機化合物の構造（2）	置換基の種類、有機化合物の種類と性質、異性体と立体構造	テキスト p. 74～p. 88	45
7	有機化学反応（1）	化学反応とエネルギー、反応速度、酸化・還元反応	テキスト p. 90～p. 96	45
8	有機化学反応（2）	置換反応、脱離反応と付加反応	テキスト p. 97～p. 101	90
9	糖質（1）	糖質の定義と分類、単糖類、二糖類、多糖類	テキスト p. 114～p. 117	45
10	糖質（2）	糖質の代謝（利用）、エネルギー貯蔵	プリント	45
11	脂質（1）	単純脂質、複合脂質、誘導脂質、生体膜	テキスト p. 117～p. 121	45
12	脂質（2）	脂質の代謝（利用）、食用油脂の劣化	プリント	90
13	アミノ酸とタンパク質（1）	アミノ酸の種類と構造、（ポリ）ペプチド、タンパク質の立体構造 タンパク質の種類と機能	テキスト p. 124～p. 130	45
14	アミノ酸とタンパク質（2）	タンパク質・アミノ酸の代謝（利用）	プリント	60
15	核酸（DNAとRNA）	核酸の構造、DNAの機能と複製、遺伝子とRNA合成、RNAの機能	テキスト p. 132～p. 138	45

《専門教育科目》

科目名	生物学			科目ナンバリング	BNAL21004
担当者氏名	佐藤　隆			担　当　形　態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2　・　選	開講年次・開講期	1　年　・　Ⅰ期

《授業の概要》
生物の構造と機能および環境との関わりについてプリントやスライドを使用して解説する。また、質問時間を設けるとともに、理解を深めるために口頭試問を行う。

《授業外学習》
予習：教科書の指定箇所を読んでおくこと。
復習：授業ノートや授業プリントを見直すこと。

《テキスト》
やさしい基礎生物学　第2版（南雲保編、羊土社）

《学習状況・理解度の確認》
わからないことは、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《参考図書》
カラー図解　アメリカ版　大学生物学の教科書　第1巻～第5巻
（デイビィッド・サダヴァ　他：著、石崎泰樹 他：監訳）

《備考》
科目担当者は、実務経験者（製薬会社勤務歴有り。）である。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	2-3 自然や科学について理解する力	生物や環境についての知識を深める。
○	2-1 多様な見方や考え方ができる力	自然の中におけるヒトの位置づけについて理解する。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試　　験	100
小テスト	0
レポート	0
発表・実技	0
授業内課題	0
その他（ ）	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習･復習等の内容	予習･復習等の時間
1	細胞	細胞の構造と機能について学ぶ。	テキストp. 12～p. 26	45
2	生命体を構成する物質①	アミノ酸、タンパク質、糖質について学ぶ。	テキストp. 27～p. 36	45
3	生命体を構成する物質②	脂質、核酸、ビタミンについて学ぶ。	テキストp. 36～p. 42	45
4	遺伝子の構造と機能	DNAおよびRNAの構造、DNA複製、転写、翻訳について学ぶ。	テキストp. 43～p. 56	45
5	生体とエネルギー	解糖系、トリカルボン酸回路、電子伝達系について学ぶ。	テキストp. 57～p. 69	45
6	光合成	光合成の機構について学ぶ。	テキストp. 70～p. 82	45
7	細胞分裂と細胞の分化	体細胞分裂、減数分裂、細胞の分化、がん化について学ぶ。	テキストp. 84～p. 96	45
8	生命体の受精と成長	生殖の仕組み、初期発生、アポトーシス、老化について学ぶ。	テキストp. 97～p. 112	45
9	多細胞生物の自己維持機構①	細胞間情報伝達システムについて学ぶ。	テキストp. 114～p. 119	45
10	多細胞生物の自己維持機構②	恒常性（ホメオスタシス）、生体防衛機構について学ぶ。	テキストp. 119～p. 138	45
11	遺伝のしくみ	メンデルの法則、遺伝病について学ぶ。	テキストp. 139～p. 162	45
12	生態系①	生物と環境について学ぶ。	テキストp. 164～p. 174	45
13	生態系②	環境問題、動物の行動について学ぶ。	テキストp. 174～p. 185	45
14	生物の進化と多様性	生物の誕生と進化、系統分類について学ぶ。	テキストp. 186～p. 204	45
15	生命科学技術と社会	生命倫理、遺伝子組み換え技術、クローン技術、再生医療について学ぶ。	テキストp. 205～p. 213	45

《専門教育科目》

科目名	私のためのキャリア設計			科目ナンバリング	BCAL21001
担当者氏名	三上　嘉代子			担　当　形　態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2　・　選	開講年次・開講期	1　年　・　Ⅰ期

《授業の概要》
この授業では自分自身を見つめる中で、社会が求める「考える力」「話す力」「書く力」「時間管理」「聴く力」について考え、社会に出るために必要な基本的なスキルを身につける。更に、授業を通して働くことの大切さと意義を理解・認識できるようになることを目的とする。

《授業外学習》
次回の授業に繋がるよう、受講後の復讐をすること。

《テキスト》
テキストは使用しません。必要に応じてプリントを配布します。

《学習状況・理解度の確認》
毎回の振り返り用紙に書く、当日の学びについて確認します。グループワークにどれだけ積極的に参加しているかの確認を行います。

《参考図書》
寿山泰二『社会人基礎力が身につくキャリアデザインブック（自己理解編）・（社会理解編）』金子書房2012年

《備考》
毎回、授業の参加態度を重視します。毎回継続して受講しないと十分な理解は得られません。積極的に授業に参加することを望みます。科目担当者は、2級ｷｬﾘｱ･ｺﾝｻﾙﾃｨﾝｸﾞ技能士資格のある実務教員

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	1-1 自己や他者を理解する力	自分自身の長所や短所･価値観等、自分について言葉で説明できる。他者へもフィードバックできる。
○	2-5 主体的に問題を設定し考える力	グループワークで自ら進んで役割を取り、与えられたテーマについて積極的に取り組むとこができる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試　　験	0
小テスト	0
レポート	15
発表・実技	10
授業内課題	30
その他（ ）	45
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習･復習等の内容	予習･復習等の時間
1	オリエンテーション	授業の目標と概要を理解し、毎回の学習内容と学習方法を確認する	配布プリントでの復讐	45
2	社会生活で必要な力①	挨拶の重要性・言葉づかい・マナーの必要性について考える	日常生活の中で実践	45
3	社会生活で必要な力②	より良い関係構築について考える	日常生活の中で実践	45
4	社会生活で必要な力③	コンセンサスを得ることについて考える	日常生活の中で実践	45
5	自分を理解する①	自分の自我状態を理解し、これからに活かす（エゴグラム）	日常生活の中で実践	45
6	自分を理解する②	これまでの自分を振り返り、これからを考える　（ライフライン）	日常生活の中で実践	45
7	自分を理解する③	四面鏡（自己評価・他者評価）	日常生活の中で実践	45
8	自分を理解する④	自分の価値観を理解する	日常生活の中で実践	45
9	自分を理解する⑤	自分軸について考える	日常生活の中で実践	45
10	事例検討	偶然性を活かすことについて考える	日常生活の中で実践	45
11	社会で求められる力①	論鋭的思考	日常生活の中で実践	45
12	社会で求められる力②	コンピテンシー	日常生活の中で実践	45
13	社会で求められる力③	社会が求める力、社会人基礎力について考える（採用会議）	日常生活の中で実践	45
14	まとめ・プレゼンテーション①	講座から学んだことを今後どのように活かすかをまとめる	日常生活の中で実践	45
15	まとめ・プレゼンテーション②	講座から学んだことを今後にどう活かすかを発表	日常生活の中で実践	45

《専門教育科目》

科目名	簿記演習Ⅰ			科目ナンバリング	BCBS21002
担当者氏名	三宅　伸二			担　当　形　態	単独
授業方法	演習	単位・必選	2　・　選	開講年次・開講期	1　年　・　Ⅰ期

《授業の概要》

商業簿記の基本原理を習得し、日商簿記検定3級に向けた基礎を学習します。取引ごとに問題演習をし、貸借対照表と損益計算書の作成方法を習得します。

《授業外学習》

宿題を出しますので、次回授業時に提出してください。
簿記検定合格は、どれだけ授業外で学習するかにかかっています。月15時間（2日で2時間）は最低学習しましょう。

《テキスト》

使用しません。

《学習状況・理解度の確認》

宿題のでき具合を都度確認します。また、月に1回程度の確認小テストを実施します。

《参考図書》

合格トレーニング日商簿記3級Ver.9
注）古いバージョンのものがありますから、最新バージョンのものを使用して下さい。

《備考》

実務家教員（元国税調査官・現税理士）による授業を授業計画の記載の内容で行う。また、日商簿記検定の資格は就職にも有利です。是非合格を目指しましょう。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	2-2論理的思考力	企業で実際に行われている利益計算システムを理解する。
○	2-3ビジネス基礎力	企業の日々の経済活動の結果がどのように利益につながっていくのかを理解する。
○	3-1経済・社会の動きを見る力	企業利益と社会との関係性を理解する。
○	3-3キャリア形成力	利益計算の方法を体系的に理解することで、どのような産業においても通用する基礎力を身に付ける。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試　　験	0
小テスト	80
レポート	0
発表・実技	0
授業内課題	0
その他（宿題）	20
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習･復習等の内容	予習･復習等の時間
1	簿記の基礎	簿記とは何か、簿記の役割	問題(1-2)(2-6)(2-8)	45
2	日常の手続き	取引の記録＝仕訳の仕組み	問題(4-1) ～(5-2)	45
3	勘定	仕訳から勘定記入の流れ	問題(5-3)～(5-4)	45
4	商品売買	商品売買の基本的な処理方法　三分法	問題(6-1)～(6-3)	45
5	現金	簿記上の現金とその取扱い	授業内容の復習	60
6	当座預金	当座預金の意味と取扱い　当座借越の処理	問題(7-1)(7-3)	45
7	小口現金	小口現金の意味と処理　インプレストシステムの仕組みと処理方法	問題(11-1)(11-3)	45
8	手形	手形の仕組みと約束手形の基礎的処理方法	問題(8-1) (8-[8-5]	45
9	その他の期中取引	前受け・前払い、仮受け・仮払い、利息計算、付随費用、有価証券、租税公課、引出金などの処理方法　訂正処理の仕方	問題(12-1)(17-1)	45
10	試算表１	試算表の意義　試算表の仕組みと作成方法	問題(19-1)(19-2)	45
11	試算表２	試算表の作成演習	問題 (19-4)	45
12	決算手続き１	貸倒引当金、有価証券の評価、消耗品、未収・未払い、減価償却	問題(21-１)～(21-18)	45
13	決算手続き２	売上原価の計算	問題(23-1)～(23-4)	45
14	精算表	精算表の形式と作成方法	問題(26-14)(27-1)	45
15	復習と確認	簿記の基本的処理の確認と総合演習	全体の復習	120

《専門教育科目》

科目名	情報モラル			科目ナンバリング	BCIL21002
担当者氏名	榎木　浩			担　当　形　態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2　・　選	開講年次・開講期	1　年　・　Ⅰ期

《授業の概要》
インターネットやケータイ、スマートフォンの普及により大量の情報に瞬時に接し、情報を活用することにより日々の生活において様々な利便性が得られる一方、いじめや詐欺などのトラブル、ウィルスの被害、著作権侵害などの危険性と隣り合わせでもあり、自己の責任において対処しなければならない。この授業では情報に関連した法律、モラル、技術を学び、適切なルールやマナーのもとで情報を取り扱う方法や考え方を学ぶ。

《授業外学習》
(1)事前学習
　予め授業のプリントを公開するので読んでくること。
(2)事後学習
　テーマ終了毎に課題を出すので、レポートにして提出すること。

《テキスト》
毎回プリントを配布する。

《学習状況・理解度の確認》
レポートはコメントを付けて写しを返却する。
分からないことは、オフィスアワー等で受け付ける。

《参考図書》
『インターネット社会を生きるための情報倫理』実教出版、2014
『最新 事例でわかる情報モラル』実教出版

《備考》
授業中は頻繁に質問をするので、はっきりと答えてください。
科目担当者は、実務経験者（情報通信関連企業及び研究所の勤務歴有り）である。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
○	1-1多様なものの見方・考え方	
○	1-3コミュニケーション力	
○	2-2論理的思考力	
○	2-5課題発見・分析力・解決力	インターネット、スマートフォンでのトラブルに対処できる。
◎	3-1経済・社会の動きを見る力	インターネット、スマートフォンのルールやマナーを理解できる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試　　験	60
小テスト	0
レポート	40
発表・実技	0
授業内課題	0
その他（ ）	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習･復習等の内容	予習･復習等の時間
1	オリエンテーション	授業内容、進め方、および成績評価の説明。 情報モラルとは何か	情報モラルの理解	45
2	情報と情報社会	情報と情報社会の特徴、インターネットの光と影、情報のはたらきと性質	プリント通読	45
3	情報と情報社会	情報の受信・発信と個人の責任	プリント通読	45
4	個人情報と知的財産	個人情報とは、個人情報の流出と保護	プリント通読	45
5	個人情報と知的財産	知的財産権、著作権、知的財産の正しい利用	プリント通読 レポート作成	120
6	ネットにおけるコミュニケーションとマナー	電子メールによる情報の受信・発信	プリント通読	45
7	ネットにおけるコミュニケーションとマナー	Webページによる情報の受信・発信	プリント通読	45
8	ネットにおけるコミュニケーションとマナー	ネット上のコミュニケーション	プリント通読	45
9	情報社会における生活	社会生活における情報	プリント通読	45
10	情報社会における生活	身近な生活における情報	プリント通読	45
11	情報社会における生活	ネット社会におけるトラブルと犯罪	プリント通読 レポート作成	120
12	情報セキュリティとネット被害	情報セキュリティ	プリント通読	45
13	情報セキュリティとネット被害	コンピュータへの被害	プリント通読	45
14	情報セキュリティとネット被害	ネット社会のセキュリティ技術	プリント通読	45
15	まとめ	講義全体の習得事項に関し到達度レベルを確認する。	全プリント復習	90

《専門教育科目》

科目名	ビジネス実務総論			科目ナンバリング	BCBL21006
担当者氏名	土方　直子			担　当　形　態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2　・　選	開講年次・開講期	1　年　・　Ⅱ期

《授業の概要》
現代社会の経済活動の中心となっている会社について、その存在意義・機能・組織形態を理解し、会社の一員として働く際に必要なビジネス実務の基礎知識を修得する。職場常識・ビジネスマナーからビジネスコミュニケーション（職場での上司とのやりとり、来客対応、電話対応）まで幅広く学ぶことで働くイメージが具体的になり自らのキャリア形成に役立てることができる。

《授業外学習》
○予習の方法：前回の授業で作成したレジュメを見直し、内容を確認しておくこと
○復習の方法：授業で説明したキーワードについて調べ、理解を深めておくこと

《テキスト》
講師作成のレジュメを配布する。

《学習状況・理解度の確認》
小テスト等については解答を配布し、授業内で説明する。

《参考図書》
『ビジネス実務総論』大学実務教育協会編、紀伊國屋書店発行、2012

《備考》
科目担当者は実務経験あり（金融機関、人材サービス業）。
ビジネス実務マナー検定1級。サービス接遇検定1級。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	2-3ビジネス基礎力	会社のしくみを理解し、ビジネス実務の基礎知識を理解している。
○	1-1多様なものの見方・考え方	会社での人間関係など、様々な立場で物事を考えることができる。
○	1-2主体的に学び考える力	職場での気配りや適切な振る舞いについて自ら考え、行動することができる。
○	2-5課題発見・分析力・解決力	ビジネスシーンの多様なコミュニケーションにおける課題を発見し、適切な対応方法を考えることができる。
○	3-3キャリア形成力	自らの働くイメージを具体的にすることができる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試　　験	70
小テスト	30
レポート	0
発表・実技	0
授業内課題	0
その他（ ）	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習･復習等の内容	予習･復習等の時間
1	オリエンテーション	本講義の概要と目標を理解し、講義内容と進め方を確認する。	配布レジュメの確認	45
2	会社活動の基本と組織形態	会社の存在意義と機能、組織形態、社会的責任について理解する。	レジュメの確認	45
3	社会人としての基本と常識・マナー	ビジネスワーカーである前に、まず、社会人としての自己管理能力、社会常識と公共のマナーを学ぶ。	レジュメの確認	45
4	ビジネスワーカーとしての資質と能力	ビジネスワーカーとしてのモラル、職場常識、ビジネスマナー、人間関係の考え方、必要とされる能力について理解する。	レジュメの確認	45
5	仕事の基本的な進め方①	ビジネスワーカーに必要な職業意識、報告・連絡・相談の方法について学ぶ。	レジュメの確認	45
6	仕事の基本的な進め方②	仕事におけるPDCAサイクル、情報収集と情報管理、会議についての知識を修得する。	小テストに向けた学習	75
7	コミュニケーション①「話す・聞く」	職場での話し方・聞き方のポイント、適切な言葉遣い（敬語表現）を理解する。	敬語問題に取り組む	60
8	コミュニケーション②「来客応対」	来客応対の基礎知識（受付、案内、茶菓サービス、席次、見送り、名刺の取り扱い）を学ぶ。	レジュメの確認	45
9	コミュニケーション③「電話応対」	電話応対の基礎知識（受け方・かけ方のポイント、様々なシーンでの対応方法）について学ぶ。	レジュメの確認	45
10	コミュニケーション④「文書作成」	ビジネス文書の形式と内容の基本、文書の取り扱い方法について学ぶ。	レジュメの確認	45
11	交際業務とビジネスマナー	ビジネスにおける交際業務（慶弔行事）のルール、ビジネスマナーについて理解する。	レジュメの確認	45
12	サービス産業の現状とサービスの種類	現代日本のサービス事情と様々なサービスについて、具体的事例を取り上げながら学ぶ。	レジュメの確認	45
13	サービススタッフに求められる資質と能力	サービススタッフに求められる資質と能力について理解し、サービススタッフとしての基本的考え方を学ぶ。	レジュメの確認	45
14	サービス実務	接客対応の7つのステップ（待機・迎え入れ・アプローチ・商品説明・クロージング・会計・見送り）について理解する。	レジュメの確認	45
15	これからの時代のキャリア形成	ビジネス実務での学びをもとに自らの将来像をイメージし、関心ある業界について理解を深める。	レジュメの確認	45

《専門教育科目》

科目名	グローバル経済事情			科目ナンバリング	BAOL32002
担当者氏名	澤山　明宏			担　当　形　態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2　・　選	開講年次・開講期	2　年　・　Ⅰ期

《授業の概要》
グローバル経済を多面的に理解し、受講生がグローバル化にいかに関わっていくかを考えるための指針となる授業を目指します。
前半ではグローバル化を経済、政治の側面から理論的に理解する国際経済学が中心となります。後半では主要な地域の現状を具体的に理解することを重視します。映画なども使用し、文化面からもグローバル経済を考える機会を提供したいと思います。

《テキスト》
指定テキストはありません。教材は適宜授業で配布します。

《参考図書》
①伊藤元重「ゼミナール国際経済入門」（日本経済新聞社2005）　②浦田秀次郎「国際経済学入門」（日本経済新聞社2009）　※この他の参考図書は授業で紹介していきます。

《授業外学習》
第３回から第８回の講義は国際経済学を前提にしています。授業でも丁寧に解説しますが、着実に理解するために参考図書などの国際経済学関係書を熟読して復習してください。
９回目以後は各地域の各国データを毎回着実に準備してください。これによって国際社会の詳細が見えるようになるでしょう。

《学習状況・理解度の確認》
・通常毎回質問、意見、感想をコメントシートに記入頂き、次の授業でレビューしながら回答します。
・詳細の質問等にはオフィスアワーで対応します。

《備考》
科目担当者は33年総合商社に勤務した実務経験者である。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
○	1-4国際感覚・異文化理解力	地域研究の基本を身につける。
○	2-1経済学的思考力	経済学を含む社会科学専攻に必要な論理的思考ができる。
○	2-5課題発見・分析力・解決力	グローバル経済を多面的に理解し、重要問題に焦点を当てて分析し、独自の見解を持てる。
◎	3-1経済・社会の動きを見る力	最新の時事問題について興味を持ち理解できる。
○	3-2グローバル・コミュニケーション力	グローバル経済に関する専門用語に通じ、適宜使える。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試　　験	0
小テスト	50
レポート	0
発表・実技	0
授業内課題	50
その他（ ）	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習･復習等の内容	予習･復習等の時間
1	グローバル化の諸相	グローバル経済への入門として、その多面性について学ぶ。	国際ニュースを読んでおく	45
2	グローバル化の歴史	現代のグローバル経済はどのようにして始まったのか、その来歴を学ぶ。	関係記事の収集	45
3	為替レート	国際経済、グローバルビジネスの理解に不可欠の為替レートについて理解する。	参考図書等による復習	60
4	国際収支	グローバル化の根底にある国際貿易について理論的に理解する。	参考図書等による復習	60
5	国際貿易の基本	国際経済学理論の根幹である貿易の理論を学ぶ。	参考図書等による復習	60
6	貿易政策	各国の貿易政策が及ぼす経済効果について学ぶ。	参考図書等による復習	60
7	通商システム	現在の通商システム（ＷＴＯ、ＦＴＡ、ＥＰＡ、ＴＰＰなど）の変遷と目的、その影響について学ぶ。	用語の整理	60
8	国の競争優位	グローバル経済下の競争において各国の優位を決めるものは何かを考える。	参考図書等による復習	60
9	地域研究（１）	主要な地域のグローバル化の展開の現状を理解し、そこにあるチャンスとリスクを考える。	対象地域のデータ整理	90
10	地域研究（２）	主要な地域のグローバル化の展開の現状を理解し、そこにあるチャンスとリスクを考える。	対象地域のデータ整理	90
11	地域研究（３）	主要な地域のグローバル化の展開の現状を理解し、そこにあるチャンスとリスクを考える。	対象地域のデータ整理	90
12	地域研究（４）	主要な地域のグローバル化の展開の現状を理解し、そこにあるチャンスとリスクを考える。	対象地域のデータ整理	90
13	地域研究（５）	主要な地域のグローバル化の展開の現状を理解し、そこにあるチャンスとリスクを考える。	対象地域のデータ整理	90
14	日本経済とグローバル化	日本経済がグローバル化にいかに対処し、どのような状況に至っているかを学ぶ。	関連記事の理解	45
15	グローバル化の将来	総括としてグローバル化の今後を考える。	授業の整理	45

《専門教育科目》

科目名	食と地域			科目ナンバリング	BARL22005
担当者氏名	松本　茂樹			担　当　形　態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2　・　選	開講年次・開講期	2　年　・　Ⅱ期

《授業の概要》
食と地域を考える時、地産地消、スローフード、食育、グリーツーリズム、エコツーリズムというキーワードが浮かびます。これらは、農産物や農村技術の販売戦略として注目されています。最近の地域振興で議論されているこうした取り組みは、農村や農業が生み出してきた地域文化や地域の知恵といった使用価値的性格の強いものです。それが、現在注目され,商品化され,地域農業振興の有力な手法として祭り上げられています。この授業では、こうした地域農業振興について学びます。

《テキスト》
毎回、レジュメとワークシートを用意します。

《参考図書》

《授業外学習》
反転授業として、事前に資料を調べてまとめることを求めます。
復習として授業のサマリーをコーネルメソッドの手法で行います。

《学習状況・理解度の確認》
授業の中で、ペアワークあるいは単独での発表を組み合わせて、重要な専門用語や概念の定着を図ります。

《備考》
実務家教員（農商工連携コーディネーター）
課題解決型授業

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
○	1-1多様なものの見方・考え方	グループワークでも人の意見に耳を傾け、否定せずに受け止めるワークを行います。
○	1-2主体的に学び考える力	反転授業として、事前に主体的に調べてきてから、授業を受けます。
○	2-1経済学的思考力	どのケーススタディも経済的観点に立って、データを用いて理解します。
◎	2-5課題発見・分析力・解決力	地域の課題を発見して分析し、それをどのように解決するかを考えます。
○	3-1経済・社会の動きを見る力	日々の新聞やテレビ等の情報の中から、この授業に関する情報を探します。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試　　験	30
小テスト	0
レポート	30
発表・実技	10
授業内課題	0
その他（ワークシート）	30
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習･復習等の内容	予習･復習等の時間
1	オリエンテーション	本講義の概要と目標を理解し、毎回の学習内容と学習方法を確認します。	地産地消について調べる	45
2	地産地消	地産地消とはどういう考え方か。フードマイレッジや食の安全等の観点から考えます。	地産地消について調べる	45
3	ケーススタディ１	地産地消のベストプラクティスをグループでディスカッションします。	食の安全安心について調べる	45
4	食の安全・安心	食の安全・安心を守る仕組みについて学びます。	食の安全安心について調べる	45
5	ケーススタディ２	食の安全・安心はどのように守られているのかについて、ケーススタディで学びます。	スローフードについて調べる	45
6	スローフード	イタリアで始まったスローフードの取り組みについて、理解を深め、伝統食をどのように守り活用するかについて考えます。	スローフードについて調べる	45
7	ケーススタディ３	スローフードについてのビジネスをケーススタディで学びます。	農村ツーリズムについて調べる	45
8	農村ツーリズム	滞在型のツーリズムは、今後インバウンドの進展の中で我が国でも大きな可能性を持っており、これを理解しビジネスに繋げます。	農村ツーリズムについて調べる	45
9	ケーススタディ４	農村ツーリズムのベストプラクティスを学びます。	６次産業化について調べる	45
10	６次産業化	儲からないと言われている農業を儲かる農業にする６次産業化について学びます。	６次産業化について調べる	45
11	ケーススタディ５	６次産業化のベストプラクティスを学びます。	食育について調べる	45
12	食育	知育・徳育・体育の基本となる食育について学びます。	食文化について調べる	45
13	食文化	地域特有の食文化についてグループワークで議論します。	復習	45
14	レポート作成	この授業を振り返り、レポートを作成します。	ワークシートまとめ	45
15	総括	食と地域の授業を総括します。	復習	45

《専門教育科目》

科目名	現代社会と法			科目ナンバリング	BAPL22006
担当者氏名	吉原 裕樹			担　当　形　態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2　・　選	開講年次・開講期	2　年　・　Ⅰ期

《授業の概要》

現代社会の様々な事象を、法的に検討する。受講者が、憲法・民法・会社法・行政法など、法律の専門科目をスムーズに学修できるよう、橋渡しするための授業でもある。憲法に重点をおきつつ、民事法・商事法・行政法・刑事法・社会保障法・国際法なども取り上げる。授業では、大幅に双方向・多方向型形式（ソクラティック・メソッド）を取り入れる。弁護士が、具体的な法律問題に直面した場合にどのような思考方法をとるか、依頼者にどのように接するかの工夫についても言及する。

《テキスト》

毛利透『グラフィック憲法入門（補訂版）』（新世社、2016年）

『有斐閣判例六法』又は『模範小六法』（いずれの場合も2019年版）を毎回持参すること

《参考図書》

憲法をより深く学修したい場合には、渋谷秀樹『憲法（第3版）』（有斐閣、2017年）、辻村みよ子『憲法（第6版）』（日本評論社、2018年）などが参考になる。

《授業外学習》

本授業は、時間の制限のため、憲法を網羅的に取り上げることはできない。そのため、テキストの『グラフィック憲法入門（補訂版）』を順次読み進め、授業期間中に一通り読み終えてほしい。また、朝日新聞・毎日新聞・読売新聞・産経新聞のいずれかに日常的に目を通し（これらの公式サイトの社会欄・政治欄・経済欄・国際欄に目を通すことでも構わない）、現代社会に起こっている最新の事象・問題に対して、常にアンテナを張っていてほしい。

《学習状況・理解度の確認》

授業では、双方向型形式（ソクラティック・メソッド）により、受講生の理解・学修の程度を把握する。授業期間中にレポート課題を与え、学修・理解の状況を確認する。

《備考》

講師は弁護士である（実務経験者教員）。講師が実際に経験した法律問題にも、数多く言及する。双方向・多方向型形式（ソクラティック・メソッド）を大幅に取り入れる（アクティブラーニング）

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	1-1多様なものの見方・考え方	法解釈が多様であることを理解し、あるべき法解釈について、複数の見解を想定することができる。
○	1-2主体的に学び考える力	双方向型授業を通じて、自己の見解を批判的に吟味し、洗練させることができるようになる。
○	2-2論理的思考力	裁判所をはじめとして、他者を説得することができる法的議論とはどのようなものかを理解している。。
○	2-3ビジネス基礎力	ビジネスパーソンとして、どのような民事法・商事法・労働法の知識が必要かを理解している。
◎	3-1経済・社会の動きを見る力	現在起こっている社会・経済の事象を、法律の観点から捉え、評価することができる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試　　験	0
小テスト	0
レポート	30
発表・実技	0
授業内課題	0
その他（授業参加態度）	70
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習･復習等の内容	予習･復習等の時間
1	オリエンテーション	授業の概要や成績評価方法について説明する。また、受講生が特に関心のある法分野を確認し、できるだけそれを反映させた授業計画とする。	次回の予習＋テキスト読み進め	75
2	憲法１（可視化された差別）	平等原則１。最近訴訟提起された、同性婚訴訟や旧優生保護法強制不妊手術被害救済訴訟など、最近注目されている差別問題を取り上げる。	次回の予習＋テキスト読み進め	75
3	憲法２（古くて新しい差別）	平等原則２。夫婦別姓、アファーマティブ・アクション、婚外子（非嫡出子）差別、外国人差別などを取り上げる。	次回の予習＋テキスト読み進め	75
4	憲法３（傷つける表現）	表現の自由１。ヘイトスピーチ、名誉毀損的表現、プライバシー侵害表現などを取り上げる。	次回の予習＋テキスト読み進め	75
5	憲法４（インターネット上の表現）	表現の自由２。サイトブロッキング、ダウンロード違法化、同人誌をはじめとする二次創作・パロディの自由などを取り上げる。	次回の予習＋テキスト読み進め	75
6	憲法５（隣のムスリム）	信教の自由、政教分離。身近にムスリム（イスラーム教徒）がいると仮定して、彼らが大学生活でどのような困難に直面するかを検討する。	次回の予習＋テキスト読み進め	75
7	憲法６（生命倫理と憲法）	自己決定権、個人の尊厳。代理母などの生殖補助医療、ヒトゲノム編集、安楽死（死の自己決定）など、生命倫理に関わる問題を取り上げる。	次回の予習＋テキスト読み進め	75
8	憲法７（絶望の裁判所）	司法権、憲法訴訟。裁判所内部における圧力と裁判官の独立、弁護士が苦心して練る憲法訴訟戦略の一端を取り上げる。	レポート課題+次回の予習	75
9	民事法・商事法１(自分の力で契約書を読み交渉する)	マンション賃貸借契約書やビジネス契約書の例を提示する。自分にとって不利な点を見極め、相手方とどのように交渉するかを検討する。	次回の予習＋テキスト読み進め	75
10	民事法・商事法２（高齢社会の法）	意思能力、行為能力、代理。親が認知症で、自ら銀行で手続をとることができない場合に、どのような方法が考えられるかを検討する。	次回の予習＋テキスト読み進め	75
11	刑事法（引きこもりの逆上事件）	責任能力、故意、未遂・既遂。精神疾患をもつ引きこもりの人が、親に対して包丁を振り回し、けがをさせたという事例について検討する。	テキスト読み進め	60
12	レポート講評	受講生のレポートに対して講評・議論する。受講生のレポートは、全員分、受講生に提供したうえで、講評・議論する予定である。	次回の予習＋テキスト読み進め	75
13	労働法（ブラック企業の被害者）	賃金、労働災害、解雇規制。毎日長時間のサービス残業が続いたため、うつ病になって休職し、結局解雇された事例について検討する。	次回の予習＋テキスト読み進め	75
14	行政法・社会保障法（O市職員の水際作戦）	行政救済法、行政手続法、生活保護法。病気のため収入・資産がなくなり、生活保護を申請したが行政職員に拒否された事例を取り上げる。	次回の予習＋テキスト読み進め	75
15	国際法（来るべき世界）	国際人権法、条約の直接適用可能性。本授業の総活を兼ねて、ヘイトスピーチや障がい者差別などの問題で、国際法を活かす方策を検討する。	総復習+テキスト読み終え	90

《専門教育科目》

科目名	民法			科目ナンバリング	BAPL22007
担当者氏名	豊福　一			担　当　形　態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2　・　選	開講年次・開講期	2　年　・　Ⅱ期

《授業の概要》
日常生活に関わりのある民法の知識を具体的な事例を交えながら解説していきます。学生生活における法律問題から、卒業後の社会生活を営む上で関わってくる法律問題までを横断的に解説していきます。

《授業外学習》
特に指定しませんが、授業の中で随時紹介します。

《テキスト》
「新時代の法学と憲法」建帛社

《学習状況・理解度の確認》
分からないことは授業中に質問を受け付けます。

《参考図書》
特に指定しません。

《備考》
科目担当者は実務経験者であり、平成１７年より弁護士として法律事務所にて執務。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
○	1-2主体的に学び考える力	積極的に授業に出席すること。
◎	2-2論理的思考力	現実に起きたアクシデントが法律に関するものであることを認識できるようになること。
○	2-3ビジネス基礎力	具体的なアクシデントに対して大まかな解決法を見通すことができるようになること。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試　　験	100
小テスト	0
レポート	0
発表・実技	0
授業内課題	0
その他（ ）	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習･復習等の内容	予習･復習等の時間
1	法の種類（導入）	法律についての基礎的な仕組み、民事・刑事の区別等。	テキストの読み返し	45
2	権利の主体	法律行為や法的な権利義務の主体となり得る者の種類や範囲等。	テキストの読み返し	45
3	契約（賃貸借）	主に賃貸借契約（アパート・マンション）の法律関係。	テキストの読み返し	45
4	契約（売買）	主に不動産の売買契約に置いて問題となる法律知識（手付、瑕疵等）。	テキストの読み返し	45
5	労働法	就職に至るまでから就職後の雇用主との間の契約関係。	テキストの読み返し	45
6	契約の成立	法律行為が有効に成立する要件とその不備があった場合の対処法。	テキストの読み返し	45
7	物権（所有権の限界）	所有権を有することの意味とその限界。主に、隣人との間で問題となりそうな法律問題。	テキストの読み返し	45
8	物権（所有権の変動）	所有者が変動する場合の内容、共有についての法的知識。	テキストの読み返し	45
9	物権（不動産登記制度）	不動産の所有者が変動する場合に必要な登記の基礎的な知識。	テキストの読み返し	45
10	物権（担保物権）	主に不動産を担保に借入れをする際に設定される抵当権の仕組み。	テキストの読み返し	45
11	婚姻・養子縁組	婚姻や養子縁組の仕組み、法的な効果。	テキストの読み返し	45
12	離婚・離縁	主に離婚する際に取り決めるべき法的事項。	テキストの読み返し	45
13	後見制度	主に高齢者が利用する成年後見制度の概要、仕組み。	テキストの読み返し	45
14	相続①	相続人の範囲、相続分の算定方法等。	テキストの読み返し	45
15	相続②	遺言の種類、内容、利用方法等。	テキストの読み返し	45

《専門教育科目》

科目名	管理栄養士概論			科目ナンバリング	NBcD11011
担当者氏名	嶋津　裕子			担　当　形　態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2　・　必	開講年次・開講期	1　年　・　Ⅰ期

《授業の概要》

管理栄養士を目指すために必要な基礎知識を学び、栄養士・管理栄養士必須の授業の必要性を認識する。また管理栄養士の成り立ち、管理栄養士の仕事と密接に関わる食糧問題や生活習慣病、生命倫理についても理解し、将来どのような職場で活躍する管理栄養士になりたいか目標を定める。

《授業外学習》

シラバスを読んで、授業内容を把握しておくこと。
講義の内容はノートにまとめておくこと。

《テキスト》

必要に応じてプリントを配布する。

《学習状況・理解度の確認》

分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《参考図書》

管理栄養士養成過程におけるモデルコアカリキュラム準拠「導入教育　信頼される専門職となるために」伊達ちぐさ、徳留裕子、岡 純編著、(株)医歯薬出版

《備考》

ディスカション、グループワーク、プレゼンテーションを行う。
科目担当者は、実務経験者（管理栄養士資格有り。企業・病院・行政機関・栄養地域活動の勤務歴有り。）である。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	2-1社会の仕組みを理解する力	どのような管理栄養士になりたいか目標を定める。
◎	2-1社会の仕組みを理解する力	栄養士・管理栄養士の成り立ちについて説明できる。
○	3-1客観的に評価する力	管理栄養士として必要な知識と技術について説明できる。
○	3-1客観的に評価する力	食糧問題、生活習慣病、生命倫理について説明できる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試　　験	0
小テスト	10
レポート	70
発表・実技	10
授業内課題	0
その他（社会人基礎力）	10
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習･復習等の内容	予習･復習等の時間
1	栄養専門職としての管理栄養士の姿	栄養士と管理栄養士の違いについて理解する。 管理栄養士の専門的行動能力を知る。社会人基礎力と育成の目的を知る。	シラバスを読む。	45
2	自己分析と社会人基礎力の理解	自己の強み・弱みを分析し自己評価する。社会人基礎力の12の能力を、授業や大学生活でどのように発揮するか提案する。	自己評価シートの見直し。	45
3	管理栄養士の使命、責務、職能について１	管理栄養士・栄養士の倫理綱項（職業倫理・生命倫理）を知る。管理栄養士が活躍している場について知る。	プリントの整理。情報収集。	60
4	管理栄養士の使命、責務、職能について２	各領域（職域）で必要とされる専門的行動能力を理解する。 自己のビジョン（なりたい管理栄養士像）を明確にする。	ワークシートの見直し。	60
5	管理栄養士の使命、責務、職能について３	自己のビジョン達成のために必要な知識とスキルを理解し、整理する。 社会人基礎力の中間のふりかえり。	プリント整理と復習。	60
6	栄養士・管理栄養士になるための基礎知識１	栄養学の全体像とその分類やつながりについて学ぶ。 ①栄養の基礎知識、②体の基礎知識	ノート整理。	60
7	栄養士・管理栄養士になるための基礎知識２	栄養学の歴史や栄養士・管理栄養士の成り立ちを学ぶ。現代医学と生活習慣に関して、現在問題となっている生活習慣病について学ぶ。	ノート整理。	60
8	栄養士・管理栄養士になるための基礎知識３	諸外国の栄養士・管理栄養士制度と日本の制度の違いを学ぶ。世界の食糧問題、人口問題が栄養問題と密接に関わることを学ぶ。	ノート整理。	60
9	自己分析と自己のビジョン	学修する上で、今の自分の強み・弱みについて分析し、自己のビジョンを達成するために能力要素をどのように発揮するかを理解する。	ワークシートの見直し。	120
10	管理栄養士の使命と役割１ 福祉施設の管理栄養士	現場からの体験談を聞くことで職務内容を理解すし、職務を遂行するために必要な社会人基礎力をどのように育成し、発揮すべきか考える。	ワークシートをまとめる。	60
11	管理栄養士の使命と役割２ 企業で働く管理栄養士	現場からの体験談を聞くことで職務内容を理解すし、職務を遂行するために必要な社会人基礎力をどのように育成し、発揮すべきか考える。	ワークシートをまとめる。	60
12	管理栄養士の使命と役割３ 地域で働く管理栄養士	現場からの体験談を聞くことで職務内容を理解すし、職務を遂行するために必要な社会人基礎力をどのように育成し、発揮すべきか考える。	ワークシートをまとめる。	60
13	管理栄養士の使命と役割４ 医療施設の管理栄養士	臨床の現場の実際を知り、患者に寄り添い、他職種から信頼される栄養の専門家とはについて考える。	レポート作成。	60
14	チーム医療	コミュニケーション能力の必要性と管理栄養士の専門性について理解する。	レポート作成。	60
15	まとめ	自己ビジョン達成の為、自己の強み、弱みの分析および伸長への提案をすることが出来る。	プレゼンの用意。	120

《専門教育科目》

科目名	解剖生理学Ⅰ			科目ナンバリング	NBdD11020
担当者氏名	佐藤　隆			担　当　形　態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2　・　必	開講年次・開講期	1　年　・　Ⅰ期

《授業の概要》
解剖生理学は、生命現象を考える上で基本となる学問領域の一つであり、栄養と健康の専門家として社会に貢献するためには、その内容を充分に理解しておくことが不可欠である。人体の細胞、組織、器官の形態とその働きについて解説する。また、知識を深めるため、質問時間を設けるとともに口頭で試問を行う。

《授業外学習》
予習：教科書の指定箇所を読んでおくこと。
復習：ノートの整理を行い、授業プリントを見直すこと。

《テキスト》
栄養科学シリーズNEXT　解剖生理学　人体の構造と機能　第2版（河田光博、三木健寿編、講談社サイエンティフィク）

《学習状況・理解度の確認》
レポートは、コメントを付して返却する。
わからないことは、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《参考図書》
標準組織学総論　第5版（藤田尚男、藤田恒夫、医学書院）
標準組織学各論　第4版（藤田尚男、藤田恒夫、医学書院）
やさしい生理学　改訂第6版（彼末一之、能勢博編、南江堂）

《備考》
科目担当者は、実務経験者（製薬会社勤務歴有り。）である。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	1-2代謝を理解する力	人体の細胞、組織、器官の形態とその働きについて説明できる。
○	1-3疾病を理解する力	

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試　　験	80
小テスト	0
レポート	20
発表・実技	0
授業内課題	0
その他（ ）	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習･復習等の内容	予習･復習等の時間
1	人体の構成原理	体の構成原理とダイナミクスについて学ぶ。	テキストp.1～p.4	45
2	遺伝子と細胞・組織	細胞とゲノム、組織の種類について学ぶ。	テキストp.5～p.17	45
3	消化器系①	消化器系の構造について学ぶ。	テキストp.18～p.25	45
4	消化器系②	消化吸収のしくみ：口腔、胃について学ぶ。	テキストp.25～p.27	45
5	消化器系③	消化吸収のしくみ：小腸、大腸、肝臓について学ぶ。	テキストp.27～p.31	45
6	呼吸器系①	呼吸器系の構造：気道、肺について学ぶ。	テキストp.32～p.36	45
7	呼吸器系②	呼吸のしくみ：呼吸とエネルギー、呼吸のダイナミクス、肺機能の測定、肺胞換気と死腔、体内のガス組成について学ぶ。	テキストp.37～p.41	45
8	呼吸器系③	呼吸のしくみ：血液による酸素および二酸化炭素の運搬、呼吸調節について学ぶ。	テキストp.41～p.45	45
9	循環系①	心臓の構造について学ぶ。	テキストp.46～p.50	45
10	循環系②	血管の構造および循環のしくみ：心臓の働きについて学ぶ。	テキストp.50～p.57	45
11	循環系③	循環のしくみ：血管の働きについて学ぶ。	テキストp.57～p.62	45
12	血液と体液	体液区分と組成、血液の成分とその働き、血液型について学ぶ。	テキストp.63～p.73	45
13	泌尿器系と腎機能①	泌尿器系の構造について学ぶ。	テキストp.74～p.76	45
14	泌尿器系と腎機能②	尿と腎機能のしくみ：尿の生成について学ぶ。	テキストp.76～p.79	45
15	泌尿器系と腎機能③	尿と腎機能のしくみ：水と電解質の排泄、排尿のしくみについて学ぶ。	テキストp.80～p.83	45

《専門教育科目》

科目名	解剖生理学Ⅱ			科目ナンバリング	NBdD11021
担当者氏名	佐藤　隆			担　当　形　態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2　・　必	開講年次・開講期	1　年　・　Ⅱ期

《授業の概要》
解剖生理学は、生命現象を考える上で基本となる学問領域の一つであり、栄養と健康の専門家として社会に貢献するためには、その内容を充分に理解しておくことが不可欠である。人体の細胞、組織、器官の形態とその働きについて解説する。また、知識を深めるため、質問時間を設けるとともに口頭で試問を行う。

《授業外学習》
予習：教科書の指定箇所を読んでおくこと。
復習：ノートの整理を行い、授業プリントを見直すこと。

《テキスト》
栄養科学シリーズNEXT　解剖生理学　人体の構造と機能　第2版（河田光博、三木健寿編、講談社サイエンティフィク）

《学習状況・理解度の確認》
レポートは、コメントを付して返却する。
わからないことは、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《参考図書》
標準組織学総論　第5版（藤田尚男、藤田恒夫、医学書院）
標準組織学各論　第4版（藤田尚男、藤田恒夫、医学書院）
やさしい生理学　改訂第6版（彼末一之、能勢博編、南江堂）

《備考》
科目担当者は、実務経験者（製薬会社勤務歴有り。）である。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	1-2代謝を理解する力	人体の細胞、組織、器官の形態とその働きについて説明できる。
○	1-3疾病を理解する力	

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試　　験	80
小テスト	0
レポート	20
発表・実技	0
授業内課題	0
その他（ ）	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習･復習等の内容	予習･復習等の時間
1	生殖と発生①	生殖器の構造について学ぶ。	テキストp.84～p.90	45
2	生殖と発生②	発生のしくみについて学ぶ。	テキストp.90～p.93	45
3	エネルギー代謝と体温調節	エネルギー代謝、体温の調節について学ぶ。	テキストp.94～p.101	45
4	内分泌系①	内分泌系の構造：視床下部、下垂体、甲状腺、上皮小体（副甲状腺）について学ぶ。	テキストp.102～p.105	45
5	内分泌系②	内分泌系の構造：副腎、胃腸膵内分泌系、性腺、松果体について学ぶ。	テキストp.105～p.108	45
6	内分泌系③	ホルモン調節のしくみについて学ぶ。	テキストp.108～p.114	45
7	免疫系①	抗体、免疫をつかさどる組織について学ぶ。	テキストp.115～p.119	45
8	免疫系②	防御反応のしくみ、疾患と免疫について学ぶ。	テキストp.119～p.122	45
9	神経系①	神経による制御のしくみについて学ぶ。	テキストp.123～p.127	45
10	神経系②	神経系の構造について学ぶ。	テキストp.127～p.133	45
11	感覚器①	感覚器の構造について学ぶ	テキストp.134～p.139	45
12	感覚器②	感覚のしくみについて学ぶ。	テキストp.139～p.144	45
13	運動器系①	骨・関節系について学ぶ。	テキストp.145～p.150	45
14	運動器系②	筋系の構造、骨と筋運動のしくみについて学ぶ。	テキストp.150～p.158	45
15	皮膚	皮膚、毛、爪、腺、皮膚感覚について学ぶ。	テキストp.159～p.164	45

《専門教育科目》

科目名	栄養教育論Ⅱ			科目ナンバリング	NAhD12044
担当者氏名	藤田　裕子			担　当　形　態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2　・　必	開講年次・開講期	2　年　・　Ⅱ期

《授業の概要》
栄養教育の実践基礎知識を学ぶだけに留まらず、管理栄養士として自らの食生活管理および健康づくりの身体活動量の設定・実践を行う。そうすることで対象者側の気持ちを理解しつつ説得力のある健康栄養教育の実践力を培う。 栄養教育の実際として、ライフステージ別の具体的な栄養教育案を演習する。コーチング等を理解することで対象者の自発的な行動を促す支援方法を学ぶ。

《授業外学習》
教科書の次回授業範囲を読んでおくこと。自らの食生活管理や、健康づくりのための身体活動量の目標設定と実践を行うこと。課題としてセルフモニタリングを数回実施する。

《テキスト》
『エッセンシャル栄養教育論』　春木敏 編（医歯薬出版）

《学習状況・理解度の確認》
返却レポートにはコメントを付す。

《参考図書》
ライフスキルを育む 食生活教育 JKYB研究会編　東山書房
Dr.坂根のやる気がわいてくる糖尿病ケア　坂根直樹　医歯薬出版

《備考》
・課題提出遅れ、居眠り、私語、教科書忘れ、授業に関係のないもの（スマホ等）を使用した場合は減点。・科目担当者は、管理栄養士として兵庫県立こども病院勤務歴のある実務経験者。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
○	2-1社会の仕組みを理解する力	対象者の特性、食生活の問題点を把握し、効果的な栄養教育の流れを説明できる。
◎	3-1客観的に評価する力	食事バランスガイドを理解し、対象者に適した食事バランスを説明できる。
		健康的な食事バランス、身体活動量について主体的に考えることができる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試　　験	60
小テスト	0
レポート	20
発表・実技	0
授業内課題	20
その他（ ）	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習･復習等の内容	予習･復習等の時間
1	栄養教育に活用する基礎知識と教材①	食品表示について理解する。栄養教育の基礎となる食品の分類（3色食品群・6つの基礎食品群）を理解し献立作成に活用できる。	ﾃｷｽﾄ p.142.145～p.148通読	45
2	栄養教育に活用する基礎知識と教材②	健康づくりのための身体活動指針を理解できる。自身の活動量をモニタリングし、健康的な身体活動計画を立てることができる。	身体活動記録1週間分	60
3	栄養教育に活用する基礎知識と教材③	「食事バランスガイド」の理解によって、1日に何をどれだけ食べればよいかがわかり、自分の食事バランスを評価することができる。	食事記録2日分	45
4	妊娠・授乳期の栄養教育	母親学級の栄養教育案を行うことにより、妊娠期の栄養教育の特徴と留意事項、指導の流れがわかる。	ﾃｷｽﾄ p.149～p.155通読	60
5	乳幼児期の栄養教育①	乳汁栄養・離乳食の特徴と留意事項がわかる。離乳期の食事相談には、どのようなものがあり、どのように答えたらよいかがわかる。	プリントの整理・復習	60
6	乳幼児期の栄養教育②	幼児期の栄養教育の特徴と留意事項がわかる。偏食、野菜嫌いなどの栄養教育プランニングを理解できる。	ﾃｷｽﾄ p.158～p.164通読	45
7	学童期の栄養教育	学童期の栄養教育の特徴と留意事項がわかる。「おやつの選択」「食品表示を読む」をテーマにした授業案を演習する。	食事記録3日分	60
8	思春期の栄養教育	「中食や外食の上手な利用の仕方」というテーマの授業案を演習し、高校生への栄養教育を理解する。	食事記録7日分	75
9	成人期の栄養教育①	特定健診に伴う保健指導の特徴と流れがわかる。行動変容段階に応じた健康栄養教育の進め方を理解することができる。	セルフモニタリング1週間	60
10	成人期の栄養教育②	「肥満予防」のための栄養教育案の実施により、成人期の栄養教育の特徴と留意事項がわかる。	セルフモニタリング1週間	60
11	高齢期の栄養教育	高齢者対象の指導案を楽しく行うことで、高齢期栄養教育の指導展開を理解できる。	ﾃｷｽﾄ p.198～p.209通読	60
12	疾病者の栄養教育	疾病者の栄養教育の特徴と留意事項がわかる。2型糖尿病患者の個別栄養教育の流れや内容が理解できる。	ﾃｷｽﾄ p.210～p.218通読	45
13	コーチングの栄養教育への適用	コーチングを栄養教育に適用した事例のロールプレイを行うことで対象者の気持ちの理解と、コーチングの効果を実感できる。	ﾃｷｽﾄ p.232～p.241通読	60
14	アスリートの栄養教育	成長期のスポーツ栄養を理解する。成長期アスリートの障害発症事例から栄養教育プランニングを学習する。	ﾃｷｽﾄ p.226～p.231通読	60
15	障害者の栄養教育	ノーマライゼーションを理解し、視覚障害者を対象とする調理の栄養教育案を理解できる。	ﾃｷｽﾄ p.219～p.226通読	60

《専門教育科目》

科目名	臨床栄養学Ⅱ			科目ナンバリング	NAiD22049
担当者氏名	前田　典子			担　当　形　態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2　・　選	開講年次・開講期	2　年　・　Ⅱ期

《授業の概要》

疾病者に対し栄養管理や栄養指導を行うのは、管理栄養士の業務の一部である。そのため、疾病の成り立ち、症状、食事療法などの知識を必要とする。この授業は、『解剖生理学』『臨床病態学』『臨床栄養学Ⅰ』での学びをベースとして、栄養管理や食事療法などの治療について学び、『臨床栄養学Ⅲ』や『臨床栄養学演習』『臨床栄養学実習』へつながる科目である。

《授業外学習》

テキストの次回授業範囲の予習をし、授業後は必ず復習をしておくこと。

《テキスト》

『ヴィジュアル　栄養学テキスト　臨床栄養学Ⅱ　各論』本田佳子編　中山書店　『糖尿病食事療法のための食品交換表』日本糖尿病協会・文光堂　『腎臓病食品交換表』　医歯薬出版

《学習状況・理解度の確認》

復習目的の小テストを実施する。小テストはコメントを付して返却する。また、次回授業で再度復習を行う。

《参考図書》

『人体の構造と機能および疾病の成り立ち　疾病の成因・病態・診断・治療』竹中優編　医歯薬出版『病気がみえるシリーズ』メディックメディア

《備考》

講義中に小テストを実施することがある。科目担当者は、実務経験者（管理栄養士資格有り。病院、福祉施設勤務歴あり。）である。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	1-3疾病を理解する力	医療・福祉における栄養管理を説明することができる。
◎	1-3疾病を理解する力	治療食への献立展開を理解することができる。
○	1-2代謝を理解する力	医療・福祉における傷病者の栄養管理に必要な基礎知識を身につける。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試　　験	80
小テスト	20
レポート	0
発表・実技	0
授業内課題	0
その他（ ）	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習･復習等の内容	予習･復習等の時間
1	代謝・内分泌疾患①	糖尿病の定義・原因・症状・治療・栄養食事管理目標・食事療法の効果・判定について学ぶ。	臨床病態学の糖尿病項目	45
2	代謝・内分泌疾患②	糖尿病（合併症）の定義・原因・症状・治療・栄養食事管理目標・食事療法の効果・判定について学ぶ。	臨床病態学の糖尿病項目	45
3	代謝・内分泌疾患③	脂質異常症の定義・原因・症状・治療・栄養食事管理目標・食事療法の効果・判定について学ぶ。	臨床病態学の脂質異常症項目	45
4	代謝・内分泌疾患④	肥満症・メタボリックシンドローム・高尿酸血症・痛風の定義・原因・症状・治療・栄養食事管理目標・食事療法の効果・判定について学ぶ。	臨床病態学の関連疾患項目	45
5	代謝・内分泌疾患⑤	先天性代謝異常・甲状腺機能亢進症・低下症の定義・原因・症状・治療・栄養食事管理目標・食事療法の効果・判定について学ぶ。	甲状腺関連項目	45
6	消化器疾患①	消化性潰瘍・潰瘍性大腸炎・クローン病の定義・原因・症状・治療・栄養食事管理目標・食事療法の効果・判定について学ぶ。	胃・十二指腸関連項目	45
7	消化器疾患②	消化性潰瘍・潰瘍性大腸炎・クローン病の定義・原因・症状・治療・栄養食事管理目標・食事療法の効果・判定について学ぶ。	大腸の働き病態関連項目	45
8	消化器疾患③	肝臓疾患の定義・原因・症状・治療・栄養食事管理目標・食事療法の効果・判定について学ぶ。	肝臓関連項目	45
9	消化器疾患④	胆嚢・膵臓疾患の定義・原因・症状・治療・栄養食事管理目標・食事療法の効果・判定について学ぶ。	胆嚢・膵臓関連項目	45
10	循環器疾患	高血圧・虚血性心疾患・心不全・脳出血・脳梗塞の定義・原因・症状・治療・栄養食事管理目標・食事療法の効果・判定について学ぶ。	循環器関連項目	45
11	腎疾患①	糸球体腎炎・ネフローゼ症候群の定義・原因・症状・治療・栄養食事管理目標・食事療法の効果・判定について学ぶ。	腎臓のはたらき・病態関連項目	45
12	腎疾患②	慢性腎臓病・慢性腎不全の定義・原因・症状・治療・栄養食事管理目標・食事療法の効果・判定について学ぶ。	腎臓のはたらき・病態関連項目	45
13	呼吸器疾患	閉塞性肺疾患・結核の定義・原因・症状・治療・栄養食事管理目標・食事療法の効果・判定について学ぶ。	呼吸器関連項目	45
14	運動器（骨格系）疾患	骨粗鬆症・骨軟化症の定義・原因・症状・治療・栄養食事管理目標・食事療法の効果・判定について学ぶ。	骨の関連項目	45
15	血液疾患・まとめ	貧血の定義・原因・症状・治療・栄養食事管理目標・食事療法の効果・判定について学ぶ。講義内容を総復習する。	血液関連項目	45

《専門教育科目》

科目名	給食管理実習Ⅰ			科目ナンバリング	NAkD12057
担当者氏名	福本　恭子			担　当　形　態	単独
授業方法	実習	単位・必選	1　・　必	開講年次・開講期	2　年　・　Ⅱ期

《授業の概要》
給食経営管理論で学んだ知識を実践する科目です。管理栄養士や調理員といった給食を作る側の立場を理解し、喫食者の配慮を考えながら大量調理を実践します、大型調理機器を使い、限られた時間内に限られた人数で作業を行う練習の積み重ねで、迅速かつ的確に作業が出来る力を養います。演習では給食の献立計画からその評価の方法までを学び、給食管理を実践する上で必要な基本項目についても繰り返し行う確認プリントで知識の定着を図ります。

《テキスト》
『イラストでみるはじめての大量調理』殿塚婦美子・山本五十六著、株式会社学建書院、2016　『給食のための基礎からの献立作成』上地加容子・片山直美、建帛社、2016

《参考図書》
管理栄養士養成テキストブック『給食経営管理論』片山直美・原正美編、株式会社みらい、2018

《授業外学習》
給食管理実習Ⅰは大量調理を主として行います。時間内に調理作業を終えることが求められますので、日常的に調理できる環境に慣れておくと作業の流れが理解しやすくなります。給食管理実習Ⅰでは、大量調理の前後にも作業を伴います。授業開始前の食材料の確認、食器の準備、授業終了後の片付けなど、授業時間前後に業務が発生しますが、これらの作業も給食の流れを理解する実習の重要な内容ですので理解して下さい。

《学習状況・理解度の確認》
大量調理の流れを繰り返し、その基本を理解する。
給食管理の基本的な知識の確認を行い、提出物にはコメントを付して返却し、必要に応じて個別に指導する。

《備考》
食中毒予防の観点から個人の健康や衛生面に対し日常的に注意を払うことが望まれます。受講生は定期的な検便検査を実施します。科目担当者は実務経験者（管理栄養士資格あり。福祉施設勤務歴）。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	2-2学んだことを確認する力	給食業務の流れと専門の施設及び設備内での調理機器や使った大量調理の方法を学ぶ
○	3-3協調性とリーダーシップ	協同で給食を作り上げるためのコミュニケーション能力を養う。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試　　験	0
小テスト	0
レポート	40
発表・実技	40
授業内課題	20
その他（ ）	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習･復習等の内容	予習･復習等の時間
1	オリエンテーション	実習の概要、実習についての心構えについて確認する。	テキストP2-4通読	45
2	計画①と演習	給食における献立の意義と目的を理解し、献立作成の考え方を学ぶ。	テキストP2-9通読	45
3	計画②	献立作成の手順（栄養アセスメント・栄養計画・食事計画・献立計画・献立作成・献立の評価・栄養評価）の概要を学ぶ。	テキストP5-9通読	45
4	計画③	献立を立案するために必要となる、給与栄養目標量を設定し、食品群別荷重平均栄養成分値の算出方法を学ぶ。	テキストP36-41通読	45
5	計画④	給与栄養目標量を満たすために必要な栄養比率を決定し、具体的な食品重量で設定した1日の食品構成表の作成方法を学ぶ。	テキストP42-47通読	45
6	計画⑤	期間献立の作成手順を学び、3日間の献立を作成する。	テキストP48-59	45
7	実施①	大量調理の基本①（大量調理の流れ、大量調理の基本知識）理解する。	テキストP9-16通読	60
8	実施②	大量調理の基本②（大量調理の特徴、料理ごとの留意事項、大型調理機器の操作、食品および人の衛生）を理解する。	テキストP17-35通読	60
9	実施③	大量調理作業①（献立の発注、検収、下処理、主調理、盛り付け、配膳、提供、片付け等）を行い、管理栄養士や調理員の役割を理解する。	これまでの授業内容の整理	90
10	実施④	大量調理作業②（献立の発注、検収、下処理、主調理、盛り付け、配膳、提供、片付け等）を行い、管理栄養士や調理員の役割を理解する。	これまでの授業内容の整理	90
11	実施⑤	大量調理作業③（献立の発注、検収、下処理、主調理、盛り付け、配膳、提供、片付け等）を行い、管理栄養士や調理員の役割を理解する。	これまでの授業内容の整理	90
12	実施⑥	大量調理作業④（献立の発注、検収、下処理、主調理、盛り付け、配膳、提供、片付け等）を行い、管理栄養士や調理員の役割を理解する。	これまでの授業内容の整理	90
13	評価と改善①	大量調理作業⑤（大量調理の問題点の抽出を行い、情報の共有と改善策を検討する）	これまでの授業内容の整理	60
14	評価と改善②	作成した献立について栄養評価を行う。また、大量調理に適した献立であるかについても検討を行い、現実に即した献立を作成する。	テキストP58-69通読	45
15	評価と改善③	大量調理の献立作成とその調理法について振り返りを行う。	これまでの授業内容の整理	45

《専門教育科目》

科目名	栄養教育論実習Ⅰ			科目ナンバリング	NAhD13046
担当者氏名	前田　典子			担　当　形　態	単独
授業方法	実習	単位・必選	1　　・　必	開講年次・開講期	3　年　・　　Ⅰ期

《授業の概要》

管理栄養士業務の一つである“栄養教育”に必要な基礎能力を身につけるため、栄養教育論Ⅰ・Ⅱで学んだ栄養教育の理論をもとに対象者の問題点を抽出、計画の立案、行動変容のための指導手法を修得する。自分自身が対象者になることで、対象者の気持ちを理解し、寄り添う栄養教育ができる管理栄養士を目指す。

《授業外学習》

栄養教育論ⅠⅡのテキストの該当項目をよく読み、準備するべき課題は必ず済ませて持参する事。（毎回授業の最後に次回準備物をお知らせします）作成した資料を確認し、資料の持つ意味を考えること。

《テキスト》

配布プリント

《学習状況・理解度の確認》

レポートはコメントを付して返却する。わからないことは随時質問を受け付ける。

《参考図書》

『日本人の食事摂取基準（2015年版）』　『食品成分表2015年版（7訂）』　『エッセンシャル栄養教育論』医歯薬出版

《備考》

電卓を準備する事。自ら考えて行動しなくてはならない実習であるため、積極的な授業参加が重要となる。科目担当者は実務経験者（管理栄養士資格有り。病院・福祉施設勤務歴あり。）である。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	2-3学んだことを選択・統合する力	健康維持増進のために必要な問題行動の抽出ができる。
◎	2-3学んだことを選択・統合する力	自身の生活習慣病リスクを軽減する行動変容を達成する。
○	3-2自分の考えを伝える力	個別栄養教育に必要なカウンセリングスキルを習得する。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試　　験	0
小テスト	0
レポート	40
発表・実技	30
授業内課題	30
その他（ ）	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習･復習等の内容	予習･復習等の時間
1	オリエンテーション	授業概要　栄養教育とは　栄養調査について	栄養調査・生活調査について	120
2	アセスメント手法	症例を用いて問題点の抽出練習	栄養調査・生活調査について	120
3	アセスメント①-1	自分のアセスメントを実施し、問題点の抽出を行う	アセスメント手法について	45
4	アセスメント①-2	自分のアセスメントを実施し、問題点の抽出を行う	アセスメント手法について	45
5	ワンポイント栄養指導	栄養指導の手法を学ぶ	効果的な指導技術とは	45
6	栄養教育計画①-1	自分自身の食生活分析とアセスメント結果から指導媒体を作成する	指導内容の情報収集	60
7	栄養教育計画①-2	自分自身の食生活分析とアセスメント結果から指導媒体を作成する	指導内容の情報収集	60
8	栄養教育計画①-3	自分自身の食生活分析とアセスメント結果から指導媒体を作成する	指導内容の情報収集	60
9	栄養教育①	栄養教育のロールプレイを行う	指導展開シミュレーション	45
10	アセスメント②-1	症例のアセスメントを実施し、問題点を抽出する	アセスメント手法について	45
11	アセスメント②-2	症例のアセスメントを実施し、問題点を抽出する	アセスメント手法について	45
12	栄養教育計画②-1	症例の食生活分析とアセスメント結果から指導媒体を作成する	効果的な指導技術とは	60
13	栄養教育計画②-2	症例の食生活分析とアセスメント結果から指導媒体を作成する	指導内容の情報収集	60
14	栄養教育②	栄養教育のロールプレイを行う	指導展開シミュレーション	45
15	評価・まとめ	自分自身の目標達成度分析　評価　まとめを行う	分析・評価に必要な資料の準備	45

《専門教育科目》

科目名	臨床栄養学Ⅲ			科目ナンバリング	NAiD23050
担当者氏名	増村　美佐子,岩田　隆男			担　当　形　態	共担
授業方法	講義	単位・必選	2　・　選	開講年次・開講期	3　年　・　Ⅰ期

《授業の概要》

傷病者の病態や栄養状態の特徴を学び、適切な栄養評価を行い、栄養計画、栄養教育などの栄養管理ができる能力を身につける。また、管理栄養士として医療、保健、介護福祉などの施設において、他職種の専門職とともに協力し合い、チーム医療に参画できる知識や技術を修得する。

《授業外学習》

・授業内に指示された項目について予習しておくこと。
・授業内容を再確認し、不明な点は質問および自学すること。

《テキスト》

『三訂　臨床栄養管理』渡邉早苗他著　建帛社
必要に応じてプリントを配布

《学習状況・理解度の確認》

・小テストを実施し、理解度を確認する。
・振り返りシートを配布し、質問に対応する。
・不明な点はオフィスアワーに質問を受け付ける。

《参考図書》

臨床栄養学Ⅰ・Ⅱ、臨床病態学Ⅰ・Ⅱ使用教科書など

《備考》

・身近な人々の健康や疾患に関心を持ち、実際的な情報を得ながら病態や検査値を覚える習慣を身に付ける。
・講義は実務経験者（現職病院管理栄養士）との共担で行う。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	1-3疾病を理解する力	疾患別の栄養評価法を理解することができる。
◎	1-3疾病を理解する力	疾患毎の評価に基づいた栄養計画（栄養ケアプラン、栄養補給法、栄養教育）を理解することができる。
○	2-3学んだことを選択・統合する力	治療用特殊食品、病者用食品などの特性や食と薬との関係を理解することができる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試　　験	80
小テスト	20
レポート	0
発表・実技	0
授業内課題	0
その他（ ）	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習･復習等の内容	予習･復習等の時間
1	臨床栄養管理の基礎１	栄養アセスメントに必要な身体計測、血液生化学検査、尿検査について学び理解する。	授業内容の復習	45
2	臨床栄養管理の基礎２	栄養必要量の算定、栄養素の補給について学び理解する。	教科書の予習 授業内容の復習	45
3	臨床栄養管理の基礎３	経口栄養法、経腸栄養法、静脈栄養法の特徴と適応について学び理解する。	教科書の予習 授業内容の復習	45
4	臨床栄養管理の基礎４	食物が医薬品に及ぼす影響、疾患と薬の関係について学び理解する。	教科書の予習 授業内容の復習	45
5	内分泌・代謝性疾患１	肥満、メタボリックシンドロームの栄養管理について学び理解する。	教科書の予習 授業内容の復習	45
6	内分泌・代謝性疾患２	糖尿病の栄養管理について学び理解する。	教科書の予習 授業内容の復習	45
7	内分泌・代謝性疾患３	脂質異常症、高尿酸血症の栄養管理について学び理解する。	教科書の予習 授業内容の復習	45
8	内分泌・代謝性疾患４	甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症、先天性代謝異常症の栄養管理について学び理解する。	教科書の予習 授業内容の復習	45
9	循環器系疾患	動脈硬化症、高血圧症、心疾患、脳梗塞の栄養管理について学び理解する。	教科書の予習 授業内容の復習	45
10	腎臓疾患	慢性腎臓病、透析時の栄養管理について学び理解する。	教科書の予習 授業内容の復習	45
11	消化器疾患１	口腔・食道疾患、胃・十二指腸、胃手術前・後の病態と栄養管理について学び理解する。	教科書の予習 授業内容の復習	45
12	消化器疾患２	炎症性腸疾患、クローン病の病態と栄養管理について学び理解する。	教科書の予習 授業内容の復習	45
13	消化器疾患３	急性・慢性肝炎、肝硬変、肝不全、脂肪肝、胆嚢炎、膵臓疾患の病態と栄養管理について学び理解する。	教科書の予習 授業内容の復習	45
14	嚥下障害の栄養法	嚥下障害、褥瘡の病態および栄養管理について学び理解する。	教科書の予習 授業内容の復習	45
15	ライスステージ別栄養管理	神経性食欲不振症、血液疾患、感染症、骨粗鬆症、認知症、パーキンソン病の病態と栄養管理について学び理解する。	授業内容の復習	45

《専門教育科目》

科目名	健康・体力づくり実践演習Ⅰ			科目ナンバリング	H1CX21043
担当者氏名	朽木　勤			担　当　形　態	単独
授業方法	演習	単位・必選	2　　・　選	開講年次・開講期	1　年　・　　Ⅱ期

《授業の概要》
健康づくりの運動指導者としての能力を養うために、適切な運動を実践することを目標とする。特に健康に関連する体力要素について理解を深め、正しい実践法を学ぶ。各自がこの授業を通して、運動実践に対する適切な態度を身につけ、将来指導者となる事の意識を高める。学修で得たものが、今後の健康体力づくり指導者を目指して学ぶことの基礎となることを期待する。

《授業外学習》
準備学習（予習・復習）に加えて、
○健康づくりに関する書籍を読んでみる。
○授業をきっかけに興味関心を持った事項について詳しく調べる。
○健康のための体力づくりを日常生活で実践してみる。

《テキスト》
「健康運動実践指導者養成用テキスト」健康体力づくり事業財団（南江堂）

《学習状況・理解度の確認》
毎回の提出物に対して真摯に取り組み努力して取り組む。提出物を採点して返却するので、十分でなかった部分を補うこと。

《参考図書》
「フィットネススポーツの科学」芝山秀太郎、江橋博編著（朝倉書店）

《備考》
○主体的かつ意欲的に授業に参加することを期待する。
○健康・体力づくり実務経験者が担当する。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
○	1-3健康情報の収集と効果的活用	健康・体力づくり運動の現代社会での実践状況を理解し、その必要性を理解できる。
○	2-1専門的知識と技術を習得する力	健康のための体力づくりとして、科学的な運動実践方法を実演できる。
◎	2-3問題を把握し解決できる力	健康のための体力づくりの運動法を効果的に行うために適切な修正ができる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試　　験	60
小テスト	0
レポート	0
発表・実技	20
授業内課題	20
その他（ ）	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習･復習等の内容	予習･復習等の時間
1	授業オリエンテーション	授業の概要を説明する	次回の準備	45
2	健康に関連する体力	健康に関連する体力の理解	資料を見直し、小テスト準備	45
3	健康づくり運動の実際（1）	ウォームアップとクールダウンの意義	資料を見直し、小テスト準備	45
4	健康づくり運動の実際（2）	ウォームアップとクールダウンのの実践	資料を見直し、小テスト準備	45
5	健康づくり運動の実際（3）	ストレッチングの意義	資料を見直し、小テスト準備	45
6	健康づくり運動の実際（4）	一般的なストレッチングの実践	資料を見直し、小テスト準備	45
7	健康づくり運動の実際（5）	望ましくないストレッチング	資料を見直し、小テスト準備	45
8	健康づくり運動の実際（6）	ウォーキングの特徴と方法	資料を見直し、小テスト準備	45
9	健康づくり運動の実際（7）	ウォーキングの正しいフォーム	資料を見直し、小テスト準備	45
10	健康づくり運動の実際（8）	ウォーキングの運動強度設定	資料を見直し、小テスト準備	45
11	健康づくり運動の実際（9）	レジスタンス運動の特徴と方法	資料を見直し、小テスト準備	45
12	健康づくり運動の実際（10）	レジスタンス運動の実践	資料を見直し、小テスト準備	45
13	健康づくり運動の実際（11）	運動プログラム作成	資料を見直し、小テスト準備	45
14	健康づくり運動の実際（12）	運動プログラムの実演	資料を見直し、小テスト準備	45
15	まとめ	授業全体のまとめ	テスト準備	60

《専門教育科目》

科目名	養護概説Ⅰ			科目ナンバリング	H2XC21003
担当者氏名	加藤　和代			担　当　形　態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2　・　選	開講年次・開講期	1　年　・　Ⅰ期

《授業の概要》
これまで児童生徒側から捉えてきた養護教諭像、保健室の イメージを、学校教育の視点から、教師性、専門性を再構築することを目指す。また学校の教育課題や児童生徒の健康課題に関心を持ち、対策を検討することで養護教諭としての児童生徒観を育てる。

《授業外学習》
文献・メディア情報等から養護教諭の職務についての情報を収集すること。

《テキスト》
『新養護概説』 采女智津江編集　少年新聞社

《学習状況・理解度の確認》
レポートはコメントを付して返却する。
小テストは採点返却後解説して知識の定着を図る。

《参考図書》
適宜紹介する。

《備考》
アクティブラーニングゾーンを利用することもある。科目担当者は、小学校・特別支援学校における勤務歴のある実務経験者。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
○	2-1専門的知識と技術を習得する力	児童生徒の健康課題に関心を持ち、現状や対策を養護活動の視点から考えることができる
○	2-2深い洞察力と探究心	「養護教諭の職務」「保健室の機能」の概観を説明することができる。
◎	3-1専門性を継続的に向上させる力	養護教諭が学校教育として担う「養護」について考えをまとめることができる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試　　験	60
小テスト	20
レポート	20
発表・実技	0
授業内課題	0
その他（ ）	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習･復習等の内容	予習･復習等の時間
1	ガイダンス	講義の進め方	テキストで養護の予習	60
2	養護教諭の職制の歴史的背景	学校看護婦として始まった歴史を踏まえ、時代とともに養護教諭の果たす役割か拡大され、職制が改善されてきたことを理解する。	テキストで予習	45
3	学校教育と養護教諭	教育基本法、学校教育法、学校保教育安全法、中教審・保体審議会の答申などから学校教育で求められる養護教諭の資質、能力を考える。	テキストで予習	45
4	養護教諭の専門性と その職務内容(1)	教育職員としての職務内容、養護教諭の専門領域における職務内容から、養護教諭の担う養護とは何かを考える。(1)	「養護とは」レポート作成	90
5	養護教諭の専門性と その職務内容(2)	教育職員としての職務内容、養護教諭の専門領域における職務内容から、養護教諭の担う養護とは何かを考える。(2)	小テスト準備	90
6	保健教育、保健管理に関わる学校組織	学校保健関係職員、学校医、学校歯科医、学校薬剤師の役割分担とその職務内容から学校保健計画、学校保健組織活動を概観する。	テキストで予習	45
7	子どもの発育発達の現状と健康課題(1)	児童生徒の発育発達の現状、健康課題の推移を理解する。	「健康課題」レポート作成	90
8	子どもの発育発達の現状と健康課題(2)	現代的健康課題に対して養護教諭が行なう保健指導や支援を考える。	小テスト準備	90
9	保健室の機能と保健室経営(1)	保健室の機能と教育上の役割を踏まえ、保健室経営について理解する。	「保健室」レポート作成	90
10	保健室の機能と保健室経営(2)	学校種・学校規模による保健室経営の違いを考える。	小テストの準備	90
11	心のケアと養護教諭	災害時の心のケアを含めて、養護活動として児童生徒への対応、保護者への対応、地域 の関係機関との連携を考える。	特別支援教育小レポート作成	90
12	特別支援教育と養護教諭	特別支援教育のシステム、障害の理解とその支援、保健室でのユニバーサルデザイン、合理的配慮を考える。	小テスト準備	45
13	小学校の保健室経営の実際	小学校保健室を訪問し、養護教諭の実践から小学校の保健室経営、養護活動を考える。	訪問レポート作成	60
14	中学校の保健室経営の実際	中学校保健室を訪問し、養護教諭の実践から中学校の保健室経営、養護活動を考える。	訪問レポート作成	60
15	まとめ	養護教諭の専門性を活かした教育活動とは	小テスト　授業内容をまとめる	45

《専門教育科目》

科目名	養護概説Ⅱ			科目ナンバリング	H2XC21004
担当者氏名	米野　吉則			担　当　形　態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2　・　選	開講年次・開講期	1　年　・　Ⅱ期

《授業の概要》
養護概説Ⅰで学んだ内容をさらに発展させ、養護教諭の役割と活動に対する認識を深める。また養護教諭の専門性を形成する人間観と科学性を再認識し、実践の学問としての位置づけを明確にする。

《授業外学習》
○グループ課題では、指定した範囲を自主学習し、授業時に発表してもらう。発表内容は事前に教員による指導を一度は受けることとする。
○2回目以降はシラバスにより授業時のテーマや内容を把握し、事前に必ず予習しておくこと。また、授業内容についての質問を準備しておくと良い。
○復習についても最低限、毎授業内容を見返しておくことを求める。

《テキスト》
「新養護概説」　采女智津江　少年写真新聞社

《学習状況・理解度の確認》
グループ課題はコメントを記入し返却する。

《参考図書》
「新版・養護教諭執務のてびき」　植田誠治他監修　石川県養護教諭研究会編　東山書房

《備考》
免許必修科目である。養護教諭免許の取得を目指す学生は意欲的・積極的に受講すること。科目担当者は養護教諭の実務経験者である。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
○	1-1良好な人間関係を形成する力	養護教諭に関わる課題について、グループ内でコミュニケーションをとりながら、協力して発表することができる。
○	2-1専門的知識と技術を習得する力	養護教諭の職務の目的や内容などを理解し、求められる専門性や資質・能力について述べることができる。
◎	2-2深い洞察力と探究心	課題研究を通して、養護教諭が学校教育に必要である理由(存在理由)を述べることができる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試　　験	70
小テスト	0
レポート	0
発表・実技	10
授業内課題	0
その他（グループ課題）	20
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習･復習等の内容	予習･復習等の時間
1	オリエンテーション	授業概要の説明および養護概説Ⅰにおける学びの確認を行う。	テキストp64～71を通読	45
2	保健管理	保健管理領域における救急処置、健康診断、健康観察、疾病予防、学校環境衛生のそれぞれの概要と目的について理解する。	テキストp72を通読	45
3	救急処置	学校における救急処置の特性、必要となる能力と技術について理解する。	テキストp73～80を通読	45
4	健康診断	健康診断の種類と項目、それぞれの留意点や実施の流れについて理解する。	テキストp81～99を通読	45
5	健康観察	健康観察の重要性と評価方法について理解する。	テキストp100～105を通読	45
6	疾病予防	子ども個別の健康課題への対応や学校感染症の予防と管理について理解する。	テキストp106～123を通読	45
7	学校環境衛生	学校環境衛生の目的、法的根拠、基準について理解する。	テキストp124～131を通読	45
8	健康相談	学校における健康相談の概要とその中での養護教諭の役割について理解する。	テキストp156～167を通読	45
9	保健組織活動	学校における保健組織や組織活動の必要性について理解する。	テキストp198～203を通読	45
10	保健教育（1）	保健学習、保健指導の目的、内容、法的な位置づけについて理解する。	テキストp132～155を通読	45
11	保健教育（2）	全校朝礼を想定した保健指導の指導計画や内容を発表する。	発表の準備	90
12	学校における危機管理と養護教諭	学校という場における日常の安全管理と災害時の危機管理について基本的な考えと養護教諭の役割について理解する。	テキストp204～211を通読	45
13	養護教諭のジェンダー	男性養護教諭の課題からみる養護教諭の課題について討議する。	配付資料を通読	45
14	養護教諭に必要な資質能力	養護教諭に求められている資質と能力、果たすべき役割について討議する。	授業内容の整理	60
15	発表、及びまとめ	これまでの学習で得られた知見を再確認し、養護教諭に関わるテーマで個人発表を行う。	発表の準備	120

《専門教育科目》

科目名	基礎看護学			科目ナンバリング	H2XB21014
担当者氏名	大平　曜子,細井　八千代			担　当　形　態	共担
授業方法	演習	単位・必選	2　　・　選	開講年次・開講期	1　年　・　　Ⅰ期

《授業の概要》

看護の理念を確認しつつ、看護の対象、歴史、機能と役割、看護過程等について学びます。受講者は、基礎看護技術に触れながら、看護実践の基本を習得します。幅広い人間理解と科学的思考、健康生活の理解など、確固たる人間観や基礎的学習能力を養い、看護学への理解を深めます。看護の「人間と健康に対するまなざし」「相手の立場」の理解などを通して、看護の心を考えていきます。

《授業外学習》

課題レポートのため、関係図書に目を通しておく。復習をしっかりおこない、正確な知識の修得に努める。医療的側面理解のため、人体の構造と機能について繰り返し復習しておく。技術の確認や科学的理解のために、実習室を利用して、積極的に練習をおこなう。

《テキスト》

『養護教諭のための看護学』（三訂版）　藤井寿美子、山口昭子、佐藤紀久榮、采女智津江 編　（大修館書店）

《学習状況・理解度の確認》

演習評価の内容に関する質問には随時応じる。レポートにはコメントを付して返却する。

《参考図書》

①『最新看護学』中桐・天野・岡田　編著　（東山書房）
②『基礎看護技術Ⅰ』（医学書院）
その他適宜紹介する

《備考》

養護教諭免許取得希望者の必須科目であり、主体的に参加する。グループ学習による課題解決型学習をおこなう。授業担当者は、養護教諭又は看護師として中学校や病院で勤務歴のある実務経験者。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	1-3健康情報の収集と効果的活用	健康情報の収集方法と健康レベルに応じた看護について説明ができる。
○	2-1専門的知識と技術を習得する力	看護の基本知識を説明することができる。
		基礎技術を理解し、根拠をもって説明し評価することができる。
○	2-4健康科学に基づく論理的思考力	看護過程を理解し、科学的･論理的に展開することができる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試　　験	50
小テスト	0
レポート	20
発表・実技	10
授業内課題	20
その他（ ）	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習･復習等の内容	予習･復習等の時間
1	オリエンテーション	授業の進め方や評価方法について	ﾃｷｽﾄ　通読	45
2	看護の概念	看護とは、健康とは 看護の概念を明らかにするとともに養護教諭の専門性との関係性を理解する。	ﾃｷｽﾄ　通読	45
3	看護の対象	看護の対象（疾病の成り立ちと回復）　看護の対象を理解し、看護活動について考える。	ﾃｷｽﾄ　通読	45
4	看護の歴史	看護の概念とその歴史を理解する。	プリントの整理	45
5	看護の機能と養護教諭	学校で必要とする看護能力、養護教諭の専門性と看護専門性に関するレポート課題を理解する。	ﾚﾎﾟｰﾄの作成	90
6	看護の基本となるもの	各種の看護理論から看護の基本となるものを理解する。	前半内容のまとめ	60
7	看護の基礎技術　1	環境整備 ベッドの整備、ベッドの条件を理解し、技術を習得する。	本時の内容確認	45
8	看護技術の基礎　2	姿勢と体位 姿勢の保持、基本的な体位を理解する。	本時の内容確認	45
9	看護技術の基礎　3	バイタル測定 バイタルサインの意味、測定方法を理解する。	本時の内容確認	45
10	看護技術の基礎　4	バイタル測定その2 バイタルサインの測定に習熟する。	本時の内容確認	45
11	看護技術の基礎　5	コミュニケーション コミュニケーションの概念、構成要素、方法を理解する。	看護技術の基礎のまとめ	90
12	看護技術の基礎　6	観察 観察の目的、視点を理解し、観察の仕方を考える。	本時の内容確認	45
13	看護過程　1	看護理論と看護過程、構成要素、情報、アセスメント、判断、計画立案、実施と評価など、要点を理解する。	本時の内容確認	60
14	看護過程　2	看護活動、看護記録の目的を理解し、方法を習熟する。	本時の内容確認	60
15	授業のまとめ	これまでの学習と得られた知見を再確認し、具体的な成果を確認する。	まとめと試験対策	120

《専門教育科目》

科目名	看護学Ⅰ			科目ナンバリング	H2XC22015
担当者氏名	細井　八千代			担　当　形　態	単独
授業方法	演習	単位・必選	3　　・　選	開講年次・開講期	1　年　・　　Ⅱ期

《授業の概要》
受講者は、医学的根拠をもって病気の経過や症状、訴えを知り、健康の回復や増進のために看護者は何ができるかを考える。実習においては基礎看護技術を習得し、よりよいケアにつながる看護知識・態度を学び、養護教諭にとっての看護実践を理解する。

《授業外学習》
・実習室を利用して積極的に練習をする。
・解剖・生理学が基本となるので復習をしておく。理解困難な医学用語はそのつど調べる。
・復習をしっかり行い不明な点は質問をすることで解決する。

《テキスト》
指定しない
必要に応じて資料を配布する。

《学習状況・理解度の確認》
実習においては毎時間修得事項の確認をし、できていない点は次回再実施する。

《参考図書》
『最新看護学』　中桐・天野・岡田編著　　（　東山書房　）
『基礎看護技術Ⅰ』　（　医学書院　）
『看護技術プラックティス』　（　学研メディカル秀潤社　）

《備考》
教員免許取得希望者の必須科目です。2コマ連続開講で、11回＋45分の授業となります。科目担当者は、養護教諭・看護師として中学校及び病院勤務歴のある実務経験者。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	2-1専門的知識と技術を習得する力	看護の基礎技術を理解する
○	1-1良好な人間関係を形成する力	実習においては看護者、患者役を学生間で実施するので必然的に良いコミュニケーションづくりに励む。
○	2-3問題を把握し解決できる力	相手の健康状態をよく観察し、健康状態に応じた援助を考える。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試　　験	60
小テスト	0
レポート	40
発表・実技	0
授業内課題	0
その他（ ）	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習･復習等の内容	予習･復習等の時間
1	オリエンテーション	授業の進め方や評価方法について説明し、　基礎看護学の復習をする。	前年配布プリント使用	45
2	基礎看護　１．環境整備	看護技術とは何か　　ベッドの整備、ベッドの条件など	配布プリントの再読	45
3	２．安楽な体位	基本的な体位、救急時のいろいろな体位	実習室を利用して練習	45
4	３．移送	移乗、移送について学習　　車椅子・担架・ストレッチャーによる移送・移動	実習室を利用して練習	45
5	４．衣服の着脱	衣類の環境　　衣服の着脱方法	実習室を利用して練習	45
6	５．身体の清潔	清潔の意義　　身体各部の清潔方法　　発汗の処理	配布プリントで復習	45
7	６．排泄の援助	安楽な体位　プライバシー保持を考えた排泄の援助、介助	配布プリントで復習	45
8	７．食生活の援助	基本的な食生活の再考　　食事介助	各自の家庭で食生活を振り返る	45
9	８．罨法	罨法の目的　　罨法の種類と効果　主に冷罨法と温罨法実施	家庭にあるもので実施してみる	45
10	９．感染予防	主に吐物の処理方法　　創傷処置の基本の理解	プリントで復習	45
11	１０．バイタルサイン測定と包帯法	バイタルサイン測定の復習　包帯法と三角巾の使い方の実施	三角巾を持ち帰り実施	60
12	授業のまとめ	これまでの学習と得られた知識を再確認し、具体的な成果を発表する		
13	予備日			
14	予備日			
15	予備日			

《専門教育科目》

科目名	学校保健Ⅱ			科目ナンバリング	H2BC22008
担当者氏名	加藤　和代, 米野　吉則			担　当　形　態	共担
授業方法	講義	単位・必選	2　・　選	開講年次・開講期	2　年　・　Ⅰ期

《授業の概要》
学校保健は子どもの命と健康を守るために必要な教育活動であり、学校教育にかかわる者に必要な使命である。 学校保健Iの学修内容をもとに学校保健活動の実際の理論と方法を学び、児童生徒の健康づくりを考えることをねらいとしている。 学校安全を含めた保健管理の領域を中心に、必要な知識や技術を修得するとともに児童生徒の心身の健康について演習や実習を通して具体的に学ぶ。

《授業外学習》
演習・実習の内容については事前に基準を熟読し、実践できるよう準備しておくこと。

《テキスト》
「学校保健ハンドブック」教員養成系大学保健協議会編 ぎょうせい

《学習状況・理解度の確認》
レポートは評価コメントを付して返却する。

《参考図書》
学校保健の動向(平成30年度版)　日本学校保健会

《備考》
学校保健Ⅲと併せて履修することが望ましい。アクティブラーニングゾーンを利用することもある。科目担当者は養護教諭の実務経験者である。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
○	1-1良好な人間関係を形成する力	学級活動（保健指導）指導案作成、教材作成等を通して役割分担、協力して模擬授業を行うことができる
◎	2-1専門的知識と技術を習得する力	児童生徒の現代的健康課題を理解し、説明することができる
○	2-3問題を把握し解決できる力	課題を解決するための実態把握、指導の機会、方法を理解し、実践力を身につける

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試　　験	60
小テスト	0
レポート	20
発表・実技	0
授業内課題	20
その他（ ）	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習･復習等の内容	予習･復習等の時間
1	学校保健活動の構造及び展開	学校保健と学習指導要領、 保健教育・保健管理・保健組織活動、学校保健計画	テキストの通読	45
2	現代的健康課題	子どもの健康問題の推移、現代的健康課題、ヘルスプロモーション	課題レポート作成	90
3	健康実態把握の方法	文部科学省学校保健統計、健康観察、保健調査、健康診断	課題レポート作成	90
4	児童生徒の健康診断(1)	学校行事としての健康診断、計画から事後措置	資料を熟読し実習に備える	90
5	児童生徒の健康診断(2)	実習、技術的基準、身体測定、視力検査、聴力検査、教育活動としての健康診断	テキストの通読	45
6	メンタルヘルスケアとその体制	健康相談、校内組織体制、スクールカウンセラー、心のケア、サポートシステム	テキストの通読	45
7	感染症・食中毒の予防と管理	学校で予防すべき感染症、出席停止、臨時休業、食物アレルギーへの対応	課題レポート作成	60
8	学校環境衛生活動	学校環境衛生基準	資料を熟読し実習に備える	90
9	学校環境生成活動の実際	日常の点検活動、定期検査、飲料水の検査、プール水の検査、残留塩素、照度	テキストの通読	45
10	学校における危機管理、安全管理	学校危機管理、安全点検、危機管理マニュアル、避難訓練	テキストの通読	45
11	学校管理下での事故や災害	学校事故発生状況、不審者侵入、突然死への対応、災害共済給付制度	課題レポート作成	90
12	学校給食と食育	学校給食法、食育基本法、栄養教諭	テキストの通読	45
13	学校保健計画、学校安全計画	学校保健・安全計画の目的意義、作成手順・評価	テキストの通読	45
14	学校保健組織活動	学校と地域社会との連携、学校保健委員会	課題レポート作成	90
15	まとめ	学修内容確認	授業内容の整理	45

《専門教育科目》

科目名	生活習慣病(成人病)			科目ナンバリング	H0DB23016
担当者氏名	兒玉　拓			担　当　形　態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2　・　選	開講年次・開講期	3　年　・　Ⅰ期

《授業の概要》
過食や運動不足など不健康な生活習慣によって高血圧や脂質異常症、糖尿病などによるメタボリック症候群が発症する。本講義では、現時点で明らかとなっているメタボリック症候群の発症機序を学習するとともに適切な栄養管理と運動指導の実際を理解し、疾病発症予防に必要な知識を獲得する。

《授業外学習》
提供される課題に対して真剣に取り組み、重要事項の把握と理解に努めること。

《テキスト》
とくに指定しない。講義用プリントを用いる。

《学習状況・理解度の確認》
必要に応じて小テストを実施し、理解度を確認する。

《参考図書》
『健康運動指導士養成講習会テキスト上・下』（財団法人　健康・体力づくり事業団）

《備考》
科目担当者は、医師として病院勤務歴のある実務経験者。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	2-4健康科学に基づく論理的思考力	現代社会の中で発症する生活習慣病の病態を理解できる。
○	2-3問題を把握し解決できる力	自ら生活習慣病の関連疾患の発症についての情報を収集し、整理する。
○	3-2地域社会を目標に導く行動力	生活習慣病の知識を習得するとともに、その発症予防に対する運動指導等を適切に実施できる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試　　験	0
小テスト	0
レポート	100
発表・実技	0
授業内課題	0
その他（ ）	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習･復習等の内容	予習･復習等の時間
1	生活習慣病概論	生活習慣病の歴史的な変遷から生活習慣病の予防等について説明する。	プリント通読	90
2	肥満症	肥満症の診断基準を学ぶと同時に肥満症発症メカニズムについて説明する。	プリント通読	90
3	高血圧（1）	血圧の維持に必要な心血管機能の基本的な知識を概説する。	プリント通読	90
4	高血圧（2）	高血圧の診断基準と高血圧の運動・食事・薬物療法について説明する。	プリント通読	90
5	糖尿病（1）	糖尿病の発症機序と分類、診断基準および糖尿病の合併症について説明する。	プリント通読	90
6	糖尿病（2）	糖尿病の運動療法や食事療法、薬物療法を説明する。	プリント通読	90
7	脂質異常症	血中脂質成分やリポタンパクの機能とその破綻について概説するとともに、脂質異常症治療としての運動療法等を説明する。	プリント通読	90
8	メタボリック症候群	血圧や血糖値、中性脂肪値および腹部周囲径などのメタボリック症候群の診断基準を理解するとともに発症予防法を説明する。	プリント通読	90
9	虚血性心疾患（1）	動脈硬化の発症機序と心臓の虚血進展メカニズムを説明する。	プリント通読	90
10	虚血性心疾患（2）	種々の動脈硬化性心疾患の症状とその心臓リハビリテーション等について説明する。	プリント通読	90
11	脳卒中	脳出血やクモ膜下出血、脳梗塞など動脈硬化による脳疾患のの症状、適切なリハビリテーションについて説明する。	プリント通読	90
12	骨粗鬆症	骨代謝を理解するとともに骨量の低下による骨粗鬆症の発症機序を説明する。	プリント通読	90
13	痛風・高尿酸血症	基礎的な尿酸代謝を概説するとともに高尿酸血症の発症機序とその予防や治療について説明する。	プリント通読	90
14	睡眠時無呼吸症候群	肥満症による上気道閉塞から生じる睡眠時無呼吸症候群の臨床症状について説明する。	プリント通読	90
15	まとめ	上記内容について総まとめを行い、理解を深める。	プリント通読	90

《専門教育科目》

科目名	精神保健			科目ナンバリング	K01F21004
担当者氏名	柳井　由美			担　当　形　態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2　・　選	開講年次・開講期	1　年　・　Ⅱ期

《授業の概要》
成長発達段階や各人の健康レベルに応じた心理状態を、その人だけでなく周りの生活を含めた幅広い視点から捉え、看護に必要な援助的人間関係について理解を深める。

《授業外学習》
予習復習を行い、専門用語の意味を整理して理解しておくことが望ましい。

《テキスト》
精神看護学Ⅰ　精神保健学　第6版　吉松　和哉他　ヌーヴェルヒロカワ

《学習状況・理解度の確認》
毎回小テストを行い、知識の定着を図る。分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《参考図書》

《備考》
科目担当者は、医師として病院勤務歴のある実務経験者である。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	1-3 人間や健康を総合的に捉える力	様々な視点から心の健康を理解する。
○	4-3 他職種間で協働と連携をする力	社会における健康増進のための施策や資源を学ぶ。
○	3-1 看護援助技術を適切に実施する力	
○	3-2 健康レベルと生活を査定する力	
○	3-3 健康の保持増進と疾病を予防する力	健康の保持・増進について的確な指示ができる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試　　験	70
小テスト	30
レポート	0
発表・実技	0
授業内課題	0
その他（ ）	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習･復習等の内容	予習･復習等の時間
1	精神の健康	精神障害の一次・二次・三次予防、精神力動論、フロイト・エリクソンの発達論	テキストp6～30	45
2	精神の健康	自我機能（防衛機制）、集団力動論	テキストp31～47	45
3	リエゾン精神看護	危機、病気と心理社会的反応	テキストp48～75	45
4	リエゾン精神看護	身体疾患を持つ人の心の健康、患者家族の心の健康、看護の精神の健康	テキストp76～130	45
5	精神保健と社会	家族・家庭の精神保健	テキストp142～150	45
6	精神保健と社会	学校と精神保健	テキストp151～157	45
7	精神保健と社会	職場における精神保健	テキストp158～166	45
8	精神保健と社会	保健医療に関する資源の活用と調整、社会資源の活用とケアマネージメント、災害時地域保健医療活動、社会復帰	テキストp167～204	45
9	精神保健医療福祉の歴史と法制度	精神保健医療福祉の歴史	テキストp206～223	45
10	精神保健医療福祉の歴史と法制度	精神保健及び精神障害者福祉に関する法律	テキストp224～231	45
11	精神保健医療福祉の歴史と法制度	精神保健医療福祉に関連する法制度、心の健康に関する普及啓発、患者の権利擁護	テキストp232～252	45
12	精神科チーム医療	チーム医療、クリニカルパス、SDM（シェアード・ディシジョンメイキング）	テキストp253～262	45
13	社会とメンタルヘルス	現代社会と精神保健的問題、様々な社会病理現象（危険ドラッグ、ギャンブル依存症、周産期のメンタルヘルス）	テキストp264～271	45
14	社会とメンタルヘルス	様々な社会病理現象（自殺、PTSD、移住、宗教体験など）	テキストp272～288	45
15	総括	精神保健の総括	授業内容の整理	60

《専門教育科目》

科目名	看護学概論			科目ナンバリング	K04C11020
担当者氏名	宮島　多映子			担　当　形　態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2　・　必	開講年次・開講期	1　年　・　Ⅰ期

《授業の概要》
看護を学ぶものとして、国民や社会に看護がどのように捉えられ、発展してきたのか、社会の要請によってどのように変化していくのかを学ぶ。その指標として、人間、環境、健康、看護の枠組みを様々な学問を基に学び、自己の考えを持つ能力を育成する。また、変化する社会と人間の概念と看護について、参考文献をもとに考察する。

《授業外学習》
新聞などのメディアの情報には、多くの看護に関連する法案や事例が掲載されている。様々なアンテナを張り巡らせながら、講義に臨むこと。また、参考文献をもとに、「看護について」考え、レポートを作成する準備をしておくこと。

《テキスト》
川村佐和子他編：ナーシング・グラフィカ基礎看護学①看護学概論、メディカ出版

《学習状況・理解度の確認》
定期試験 および課題レポート
課題レポートは、複数回の指導を行う場合がある。

《参考図書》
1.F.Nightingale:看護覚え書-看護であること看護でないこと-,湯槇ます他訳.現代社 2.M.Mayeroff：ケアの本質-生きることの意味-,田中真他訳.ゆみる出版

《備考》
科目担当者は、看護師として病院勤務歴のある実務経験者である。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
○	1-1 人々の尊厳と権利を擁護する力	変化する社会と人間の在り方を倫理的に考察する。
◎	1-3 人間や健康を総合的に捉える力	看護の基礎となる概念について理解する。保健・医療・福祉の中で看護の果たす役割を理解する。
○	2-3 人々と援助関係を形成する力	看護におけるマネジメントを理解する。 災害看護について理解する。
○	2-1 多様な価値観を理解する力	看護を行うために必要な学問を理解する。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試　　験	80
小テスト	0
レポート	20
発表・実技	0
授業内課題	0
その他（ ）	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習･復習等の内容	予習･復習等の時間
1	看護への導入	オリエンテーション　看護師のイメージ 健康な日常生活と看護　看護の責務とその広がり	教科書・参考図書	120
2	看護への導入	看護のねらい　実践科学としての看護　看護実践のための基準　看護の変遷　現代社会における看護のあり方	教科書・参考図書	120
3	看護の対象とその理解	看護の対象　統合体としての人間　個人、家族、コミュティ、地域社会 健康障害を持つ対象の理解　ストレスと適応	教科書・参考図書	120
4	健康と病気	健康・病気の捉え方の変遷　健康に影響を及ぼす要因 看護における健康と病気	教科書・参考図書	120
5	ライフサイクルと健康	人間の発達　「人間が生きるということ」とは	教科書・参考図書	120
6	看護における倫理と価値	看護における倫理の必要性　価値とは　道徳的ジレンマと倫理的課題 倫理的課題への対応　倫理的看護実践を行なうために必要なこと	教科書・参考図書	105
7	看護における倫理と価値	法の概念　看護実践の職業的および法的規則 医療事故における法的責任	教科書・参考図書	120
8	看護実践のための理論的根拠	看護理論の分類　看護理論の変遷　さまざまな看護理論	教科書・参考図書	120
9	看護実践のための理論的根拠	看護過程とは　看護実践における看護過程の展開	教科書・参考図書	120
10	看護ケアのマネジメント	看護のマネジメント　質の高い看護ケアとは　医療安全 病院組織	教科書・参考図書	120
11	保険医療福祉システム	保健・医療・福祉の概念　サービスの提供の場　保健・医療・福祉チーム　保健・医療・福祉におけるケア提供の経済	教科書・参考図書	120
12	看護の展開と継続性	看護におけるチームアプローチ　看護の継続性	教科書・参考図書	120
13	災害看護の基礎	災害看護の必要性　災害の定義　災害の分類	教科書・参考図書	120
14	国際看護	保健医療・看護における国際化と展望 国際協力と看護の展望	教科書・参考図書	120
15	これからの看護の課題と展望	看護に求められる教育　専門職としての看護組織 社会における看護　社会の要請と看護	教科書・参考図書	120

《専門教育科目》

科目名	家族関係論			科目ナンバリング	K01D21003
担当者氏名	高見　千恵			担　当　形　態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2　・　選	開講年次・開講期	1　年　・　Ⅱ期

《授業の概要》
家族構造と機能の変化に伴い、現代の家族は諸問題を抱えており、家族看護を理解することは重要となっている。そのため、様々な健康レベルにある家族の生活や健康上の問題、家族看護に関係する理論に基づいたアセスメントを理解し、家族のニーズに合った支援方法を学習する。

《授業外学習》
次回の授業範囲を予習し、講義で学んだ内容は教科書や配布資料で復習しておくこと。

《テキスト》
「家族看護学 理論と実践」 鈴木和子・渡辺裕子著 日本看護協会出版会

《学習状況・理解度の確認》
分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《参考図書》
「家族看護学-19の臨床場面と8つの実践例から考える-」 山崎あけみ・原礼子編 南江堂

《備考》
科目担当者は、看護師として病院勤務歴のある実務経験者である。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
○	1-3 人間や健康を総合的に捉える力	家族を単位として展開する看護の考え方を理解できる。
◎	2-1 多様な価値観を理解する力	生活・健康問題が家族に及ぼす影響を多面的に理解できる。
○	3-2 健康レベルと生活を査定する力	
○	2-3 人々と援助関係を形成する力	事例を通して、家族の生活・健康問題をアセスメントし、支援方法を理解できる。
○	5-1 社会変化に応じて看護を創造する力	家族看護における看護職者の役割が理解できる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試　験	80
小テスト	0
レポート	20
発表・実技	0
授業内課題	0
その他（ ）	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習･復習等の内容	予習･復習等の時間
1	家族とは	家族の定義、日本の家族の動向	ﾃｷｽﾄp4～p25	60
2	看護学における家族の理解	家族看護の対象、家族を単位としたアプローチ	ﾃｷｽﾄp28～p45	60
3	家族看護における理論	家族発達理論、家族システム理論、家族ストレス対処理論	ﾃｷｽﾄp46～p59	60
4	小児期の家族看護	子どもをもつ家族の発達課題と健康問題	ﾃｷｽﾄp178～p225	60
5	成人期の家族看護	成人期の健康問題をもつ人と家族の健康問題	配布資料	60
6	高齢者の家族看護1	高齢者と家族の健康問題	配布資料	60
7	高齢者の家族看護2	エンド期の療養者を支える家族ケア	配布資料	60
8	家族看護過程1	情報収集	ﾃｷｽﾄp76～p95	60
9	家族看護過程2	アセスメント、家族アセスメントモデル	ﾃｷｽﾄp95～p106、p113～p136	60
10	家族看護過程3	計画立案、評価	ﾃｷｽﾄp107～p112、p154～	60
11	事例検討	グループワーク	発表資料作成	90
12	事例検討	グループワーク	発表資料作成	90
13	事例検討	プレゼンテーション、ディスカッション	配布資料	90
14	事例検討	プレゼンテーション、ディスカッション	配布資料	90
15	まとめ	家族看護における看護職者の役割	ﾃｷｽﾄp162～p174	60

《専門教育科目》

科目名	免疫・微生物学			科目ナンバリング	K02C12015
担当者氏名	兒玉　拓			担　当　形　態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2　・　必	開講年次・開講期	1　年　・　Ⅱ期

《授業の概要》
グローバル社会の進展から種々の新興感染症の拡大が懸念されている。本講義では医療現場で身近に遭遇する感冒等の感染症から近年注目されているデング熱・鳥インフルエンザ等輸入感染症などトピックスを加えながら基礎的な感染症の知識と対策を理解する。また生体防御としての人間の免疫反応や過剰免疫であるアレルギー反応等についての知識も合わせて学習する。

《授業外学習》
講義の進行に応じて実施する課題に真剣に取り組み、重要事項の把握と理解に努めること。理解が不十分な場合は教員に質問を行う積極性が求められる。

《テキスト》
『ビジュアル微生物学』小田　紘　著（ヌーヴェルヒロカワ）

《学習状況・理解度の確認》
中間テストでは採点後、要点の解説を実施して知識の定着を図る。学習理解を深めるため希望者を対象にアクティブラーニングゾーン等において補習講義を追加する。

《参考図書》
『人体の正常構造と機能VII 血液・免疫・内分泌』山本一彦他著（日本医事新報社）パワーアップ問題演習　微生物学　西條正幸　著（サイオ出版）

《備考》
免疫学分野終了後、指定された期日に中間試験を実施する。必要に応じて補習講義を実施する。科目担当者は、医師として病院勤務歴のある実務経験者である。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	3-3 健康の保持増進と疾病を予防する力	免疫機構による健康保持について理解するとともに、疾病の原因となる病原体との関わり等について説明できる。
○		免疫機能の詳細を理解するとともに、様々な疾患の破綻に免疫が関わっていることを説明できる。
○	3-1 看護援助技術を適切に実施する力	看護援助の中で免疫機能の低下患者に対する衛生的配慮を十分に実施でき、感染症の発症予防について説明できる。
○	3-2 健康レベルと生活を査定する力	健康体に維持に重要な免疫力の増進について理解すると同時に、細胞レベルでの免疫機能について説明できる。
○		種々の医療環境の中で感染症コントロールを適切に実施することができる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試　　験	50
小テスト	0
レポート	0
発表・実技	0
授業内課題	0
その他（中間試験）	50
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習･復習等の内容	予習･復習等の時間
1	生体防御（1）	食細胞と自然免疫について理解する。	プリント通読	90
2	生体防御（2）	リンパ球と獲得免疫について理解する。	プリント通読	90
3	生体防御（3）	種々の免疫の異常やアレルギー疾患について理解する。	プリント通読	90
4	生体防御（4）	生体防御に重要なリンパ器官について理解する。	中間テスト範囲の整理	120
5	微生物学総論	細菌・真菌・原虫・ウイルス等の生物の特徴を理解する。	プリント通読	90
6	感染症とその診断	感染源や感染経路、病原体分離診断法に基礎を理解する。	プリント通読	90
7	感染症の予防とコントロール	感染症に対する対策、治療法について理解する。	プリント通読	90
8	微生物学各論（1）	グラム陽性球菌等の特徴とその治療法について理解する。	プリント通読	90
9	微生物学各論（2）	グラム陰性球菌等の特徴とその治療法について理解する。	プリント通読	90
10	微生物学各論（3）	グラム陰性桿菌等の特徴とその治療法について理解する。	プリント通読	90
11	微生物学各論（4）	マイコプラズマ・リケッチア等の特徴とその治療法について理解する。	プリント通読	90
12	微生物学各論（5）	真菌・原虫・寄生虫等の特徴とその治療法について理解する。	プリント通読	90
13	微生物学各論（6）	飛沫感染するウイルス等の特徴とその治療法について理解する。	プリント通読	90
14	微生物学各論（7）	経口感染するウイルス等の特徴とその治療法について理解する。	プリント通読	90
15	微生物学各論（8）	血液感染するウイルス等の特徴とその治療法について理解する。	期末テスト範囲の整理	120

《専門教育科目》

科目名	生物基礎			科目ナンバリング	K02B11001
担当者氏名	岩田　薫			担　当　形　態	クラス分け
授業方法	講義	単位・必選	2　・　必	開講年次・開講期	1　年　・　Ⅰ期

《授業の概要》
専門科目の理解に必要不可欠な生物学の基本的な知識をヒトに焦点化して解説する。また、医療現場に導入されつつある先端バイオ技術に対応できるように最新の細胞生物学や分子生物学についても解説する。内容が網羅的なため講義主体の授業となるが、最低2回のアクティブラーニング授業を予定している。

《授業外学習》
テキストに示した「人間の生命科学」は、大学において生物系科目を専攻する学生の副読本として作成されているが、生命科学を人間の一生を軸に構成されており、看護・栄養・保健・福祉・保育分野の学修に適している。特に看護学科では今後履修する専門科目の基礎となる内容なのでテキストを活用してしっかりと予習復習してほしい。

《テキスト》
毎回授業で配付するプリント及び「人間の生命科学」公益財団法人　日本科学協会Ｗｅｂ版又はｅＰＵＢ版（利用方法は初回講義で案内します。）

《参考図書》
「大学で学ぶ身近な生物学」吉村成弘（羊土社）

《学習状況・理解度の確認》
三度実施する小テストをコメントを付して返却し定期試験にフィードバックさせる。定期試験の得点率を考察し次年度の到達目標に反映させる。

《備考》
科目担当者は実務経験者（遺伝学・分子生物学を専門とする教育学修士、兵庫県立高等学校校長経験者）である。

《授業の到達目標》

	ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
◎	3-2 健康レベルと生活を査定する力	基礎生物で取り上げるヒトの身体の仕組みや働きについての学習から健康レベルや生活を査定できる力を身につける
○	3-3 健康の保持増進と疾病を予防する力	生体内での物質交代や調節機能を学習することにより、健康の維持増進と疾病を予防できる力を身につける

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試　　験	70
小テスト	30
レポート	0
発表・実技	0
授業内課題	0
その他（ ）	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習･復習等の内容	予習･復習等の時間
1	生物とは 細胞の構造と機能	生物体の特徴（生物と無生物）生物体への物質の出入り	授業終了後プリントを整理する	45
2	生命体を構成する物質	主役はタンパク質　生体元素と生体を構成する化合物	授業終了後プリントを整理する	45
3	酵素と化学反応	酵素は生体内のさまざまな化学反応を促進する触媒 いろいろな酵素（消化とは）	プリント整理と小テスト学習	45
4	代謝と呼吸 小テスト	生体内での物質交代とエネルギー交代 呼吸のしくみ	プリント整理と小テスト見直し	45
5	生殖とは	配偶子の形成とヒトの性決定 親から子へ形質は伝わる（メンデル性遺伝）	授業終了後プリントを整理する	45
6	ヒトの発生と分化	発生の過程と器官形成	授業終了後プリントを整理する	45
7	遺伝子の本体とタンパク質合成	DNAの構造と複製遺伝子からタンパク質へ（転写と翻訳）	プリント整理と小テスト学習	45
8	ヒトの遺伝 小テスト	血液型・赤緑色覚異常・染色体異常・遺伝子変異　など	プリント整理と小テスト見直し	45
9	神経系の構造と働き	刺激から反応まで神経伝達物質による刺激の伝達	授業終了後プリントを整理する	45
10	受容器の種類と働き	眼・耳・筋肉の構造と働き	授業終了後プリントを整理する	45
11	自律神経系と内分泌系	自律神経はアクセルとブレーキ（拮抗的作用）内分泌系（ホルモン）による持続的な調節	プリント整理と小テスト学習	45
12	体内環境の調節 小テスト	自律神経とホルモンの連携による体内環境の調節（フィードバック調節）	プリント整理と小テスト見直し	45
13	体液の恒常性 腎臓・肝臓の働き	体内環境としての体液ものを作り、蓄え、分解する肝臓 体液を浄化し尿を生成する腎臓	授業終了後プリントを整理する	45
14	免疫	体を外敵から守るしくみ体液性免疫と細胞性免疫	小プリント整理と全体復習	60
15	学習のまとめ	生命活動に関する基礎基本のまとめ	基礎基本の整理	45

《専門教育科目》

科目名	養護概説			科目ナンバリング	K10E22071
担当者氏名	細川　愛美			担　当　形　態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2　・　選	開講年次・開講期	2　年　・　Ⅱ期

《授業の概要》
養護教諭に関する関係法令等、基本事項を理解し、養護教諭の専門性と役割及び職務について学習する。保健室経営を展開していくには学校内外との連携も重要であり、学校保健関係者の役割と職務についても理解する。授業は、ブレインストーミング・KJ法等の演習を取り入れながら、体験的な学びを通して理解できるように構成する。

《授業外学習》
準備学習に加えて
・養護教諭、学校保健に関する書籍を読んでみる。
・教育関係に関連する課題について記録する。

《テキスト》
『新養護概説』第10版 采女智津江 少年写真新聞社 2018年
『児童生徒等の健康診断ﾏﾆｭｱﾙ』文部科学省ｽﾎﾟｰﾂ・青少年局学校健康教育課監修（財)日本学校保健会 2015年

《参考図書》
『養護学概論』岡田加奈子・河田史宝編 東山書房 2016年
『教職員のための子どもの健康観察の方法と問題への対応』文部科学省 2009年

《学習状況・理解度の確認》
・グループ演習、発表等を通して理解度を確認する。
・レポートにコメントを付して返却する。
・分からないことは質問を受け付ける。

《備考》
教育関係及び児童生徒等に関する課題について関心を持ち、主体的に授業に臨んで欲しい。科目担当者は養護教諭として、小・中学校勤務歴のある実務経験者（新採用養護教諭研修等の講師歴有）である

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	3-3 健康の保持増進と疾病を予防する力	養護教諭に関する関係法令等の基本事項が理解できる。養護教諭の専門性と役割及び職務について説明ができる。
○	1-3 人間や健康を総合的に捉える能力	児童生徒等の発達段階と健康課題に対する対応について理解できる。
○	2-2 コミュニケーションを展開できる力	養護教諭の職務の特性について説明できる。
○	4-3他職種間で協働と連携をする力	保健室経営の展開について理解する。 学校内外との連携について説明できる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試　　験	50
小テスト	20
レポート	10
発表・実技	10
授業内課題	10
その他（ ）	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習･復習等の内容	予習･復習等の時間
1	オリエンテーション 養護教諭と保健室	本講義の概要と授業の進め方について説明する。 学校における保健室の場がもつ特性について理解する。	受講カードの記入	45
2	養護教諭制度の変遷 養護教諭の専門性	養護教諭の歴史について理解する。 養護教諭の職務の経緯、専門領域における職務内容について理解する。	ﾃｷｽﾄ　p.10～17 予習	45
3	養護教諭と関係法令 学校教育と学校保健	法律における養護教諭に関する規定について理解する。 教育の目的、学校教育と学校関係法令について理解する。	ﾃｷｽﾄ　p.30～37 予習	45
4	養護教諭の職務 保健管理①	学校における救急処置の法的根拠、目的、特質、範囲、救急体制について理解する。	ﾃｷｽﾄ　p.73～79 予習	45
5	養護教諭の職務 保健管理②	学校における救急処置活動の進め方、災害共済給付制度について理解する。	小テストの範囲整理	120
6	養護教諭の職務 保健管理③	小テスト（20分）　健康診断の法的根拠、定期健康診断、臨時の健康診断、就学時健康診断、職員の健康診断について理解する。	ﾃｷｽﾄ　p.81～89 予習	45
7	養護教諭の職務 保健管理④	児童生徒等の健康診断の実際について理解する。	課題について予習	90
8	養護教諭の職務 保健管理⑤	健康観察、疾病管理、学校環境検査について理解する。	ﾃｷｽﾄ　p.106～114　予習	45
9	養護教諭の職務 保健教育①	教育課程における保健教育の位置付けと保健学習について理解する。	ﾃｷｽﾄ　p.132～137　予習	45
10	養護教諭の職務 保健教育②	特別活動における保健指導、個別指導における保健指導について理解する。	ﾃｷｽﾄ　p.145～151　予習	45
11	養護教諭の職務 保健管理⑥	学校における健康相談、精神保健について理解する。	ﾃｷｽﾄ　p.156～165　予習	45
12	保健室の機能と保健室経営	法的根拠、保健室の機能と役割、保健室経営、保健組織活動について理解する。	ﾃｷｽﾄ　p.188～202　予習	45
13	学校安全と危機管理	学校における危機管理、子どもの心のケアについて理解する。	ﾃｷｽﾄ　p.204～210　予習	45
14	現代的な健康課題とその対応	中央協議会答申を踏まえ、健康課題とその対応について考える。	課題について予習	45
15	まとめ	養護概説についてまとめる。	授業内容の整理	45

《専門教育科目》

科目名	臨床病理病態学Ⅱ（内科系）			科目ナンバリング	K03B12017
担当者氏名	伊藤　純			担　当　形　態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2　・　必	開講年次・開講期	2　年　・　Ⅱ期

《授業の概要》
看護を行うためには、それぞれの疾患の病理と病態を理解する必要があります。形態機能論で学んだ正常な人間の構造と機能の理解の上に成り立つ分野です。

《授業外学習》
毎回の復習を行う。

《テキスト》
系統看護学講座　呼吸器 川村雅文、循環器　吉田俊子、消化器　松田明子（医学書院）

《学習状況・理解度の確認》
授業中の質問により確認する。
毎回の小テストの問題毎の正答率により理解度を把握し、理解度の低い事項については次回の授業で詳細に解説する。

《参考図書》
特になし

《備考》
科目担当者は、医師として病院勤務歴のある実務経験者である。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
○	3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力	疾患の病理と病態の理解
○	3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力	疾患の病理と病態の理解
○	3-3 個人と家族の生活を査定する能力	疾患の病理と病態の理解
○	3-6 急激な健康破綻と回復過程にある人々を援助する能力	疾患の病理と病態の理解
◎	3-7 慢性疾患及び慢性的な健康課題を有する人々を援助する能力	疾患の病理と病態の理解

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試　　験	50
小テスト	50
レポート	0
発表・実技	0
授業内課題	0
その他（ ）	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習･復習等の内容	予習･復習等の時間
1	呼吸器疾患①	呼吸機能と呼吸器疾患総論	授業の復習	45
2	呼吸器疾患②	呼吸器系感染症	授業の復習	45
3	呼吸器疾患③	その他呼吸器疾患（肺がんなど）	授業の復習	45
4	呼吸器疾患④	呼吸器疾患まとめ	授業の復習	45
5	循環器疾患①	循環器系の構造と循環器疾患総論	授業の復習	45
6	循環器疾患②	高血圧、虚血性心疾患	授業の復習	45
7	循環器疾患③	心不全、不整脈など	授業の復習	45
8	循環器疾患④	循環器疾患まとめ	授業の復習	45
9	消化器疾患①	消化機能と消化器疾患総論	授業の復習	45
10	消化器疾患②	上部消化管疾患	授業の復習	45
11	消化器疾患③	下部消化管疾患	授業の復習	45
12	消化器疾患④	肝・胆・膵疾患①	授業の復習	45
13	消化器疾患⑤	肝・胆・膵疾患②	授業の復習	45
14	消化器疾患⑥	消化器疾患まとめ	授業の復習	45
15	まとめ	アクティブラーニングによる臨床病理病態学全体のまとめ	授業の復習	45

《専門教育科目》

科目名	生涯発達心理学			科目ナンバリング	SFFA21006
担当者氏名	原　志津			担　当　形　態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2　・　選	開講年次・開講期	1　年　・　Ⅰ期

《授業の概要》
従来の「発達心理学」は、乳幼児期から青年期までをその領域としていたが、近年の人の長寿化傾向と高齢化社会を背景に、成人期から高齢期までを含む「生涯発達心理学」として考えられるようになってきた。この授業では、人間の誕生前後から死に至るまでの一生涯を対象とし、人は一生、発達し・成熟していく存在であるということを様々な教材を用いて考えられるよう学んでいく。

《授業外学習》
人の人生に関するニュースや新聞記事を目にしたらメモしておく。終末期を考える講演会などにも積極的に参加し、最新の生涯福祉の情報を得て今後にいかせるように学ぶ。

《テキスト》
特に指定しない。必要な資料は毎回配布する。

《学習状況・理解度の確認》
提出されたレポートには、コメントをつけて返却する。

《参考図書》
授業中に随時紹介する。

《備考》
科目担当者は、臨床心理士であり、幅広い年齢層のクライエントとの相談業務を現在も続けている実務経験者。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
○	1-1何事にも関心をもつ知的探究心	身近に暮らすあらゆる年代の人々に関心をもち、出会った人たちから学ぼうとする姿勢を身につける。
◎	3－5市民・専門職としての生涯学習力	生涯発達心理学の考え方を理解し、あらゆる年代の人々の生活を支援できるよう自分なりに考えられるようになる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試　　験	50
小テスト	0
レポート	20
発表・実技	0
授業内課題	0
その他（授業態度）	30
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習･復習等の内容	予習･復習等の時間
1	オリエンテーション	生涯発達心理学の考え方を知る。	ファイルを作る	45
2	思春期の心理	「思春期」少し前の自分を知る	資料の整理	45
3	青年期の心理①	エリクソンの心理・社会的発達理論、親子関係、友人関係	資料の整理	45
4	青年期の心理②	ある事例から、幼児期からの育ちと青年期の心理・行動について学ぶ	教材の復習	45
5	青年期の心理③	青年期の心理・行動について学ぶ	小レポートを作成する	45
6	成人期の心理①	母子関係の始まりと乳児の発達	資料の整理	45
7	成人期の心理②	母子関係と幼児の発達	資料の整理	45
8	成人期の心理③	子どもが成長した後の、親の心理	資料の整理	45
9	成人期後期の心理①	成熟期・老年期ともいわれるこの年代の人々の心理や生活を知る。	資料の整理	45
10	成人期後期の心理②	生きがいについて	資料の整理	45
11	終末期についての理解①	ある事例から、終末期の人々への支援を考える。	教材の復習	45
12	終末期についての理解②	終末期を支援することの意味について考える。	小レポートを作成する	45
13	少子高齢社会の命と心	これまでの社会と、これからの少子高齢社会に人はどのように生きていくべきか考える	資料の整理	45
14	高齢者と子どもとの関わり	死にいたるまでの限りある生をいかに生きるか・世代の異なる人とのつながりが人にもたらすことについて考える	資料の整理	45
15	生涯発達心理学のまとめ	生涯発達心理学で学んだことについてのふり返りを行う。	授業内容の整理	60

《専門教育科目》

科目名	相談援助の基盤と専門職Ⅰ			科目ナンバリング	SSPA12001
担当者氏名	和田　光徳			担　当　形　態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2　・　必	開講年次・開講期	1　年　・　Ⅱ期

《授業の概要》
社会福祉の実践方法であるソーシャルワーク実践に不可欠な価値、態度、基本理念を理解することが本講義の目的である。Ⅰ期では、ソーシャルワーク援助の原点、現在までの発展過程を学び、そこから相談援助に不可欠な専門職としての価値、実践原理、利用者の人権擁護について、教科書に基づき学びを進める。

《授業外学習》
常に生活地域で、社会でどのような福祉問題が取り上げられ、どのような対応がなされているかに敏感になり情報を集めること。新聞やTVで、ネットで流される福祉問題の取り上げ方、そこに偏見や差別観などが潜んでいないかにも注意を払うこと。これらによって常に感性を磨いてほしい。

《テキスト》
社会福祉士養成講座編集委員会編　第３版　新社会福祉士養成講座6「相談援助の基盤と専門職」中央法規出版、2015

《学習状況・理解度の確認》
提出物については、コメントを付して返却する。

《参考図書》
社会福祉士養成講座編集委員会編　新社会福祉士養成講座７「相談援助の理論と方法Ⅰ」　新社会福祉士養成講座8「相談援助の理論と方法Ⅱ」中央法規出版、2009

《備考》
専門職としての学びのため、特別な事情がない限り遅刻は認められない。専門職としての自覚を持って授業に臨むこと。授業中の携帯操作は禁止する。総合病院等における相談援助の実務経験を有する。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	2-3人々の生活理解と課題発見力	ソーシャルワークの基盤となる視点から「生活」を理解し、現代社会の生活問題を説明できる
○	1-5社会に貢献する態度と倫理観	ソーシャルワークの基盤となる視点から、専門職としてのふさわしい態度、倫理観を涵養する
○	2-4地域や人々についての課題解析力	ソーシャルワークの基盤となる視点から、メゾ、マクロレベルの課題について解析できる

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試　　験	50
小テスト	20
レポート	0
発表・実技	0
授業内課題	0
その他（授業への参加態度）	30
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習･復習等の内容	予習･復習等の時間
1	社会福祉に関わる専門職	社会福祉士、精神保健福祉士の法律における位置づけと専門性を検討する	第1章第1節を精読する	45
2	現代社会で生きるということ	現代社会での生活にみられる問題点と病理を検討する。また、地域社会の問題を考え、福祉社会への移行のための課題について検討を加える。	第1章第2節を精読する	60
3	ソーシャルワークとはなに？	現代社会におけるソーシャルワークの概念、ソーシャルワークの諸定義について検討する	第2章第1節を精読する	60
4	ソーシャルワークを構成する要素とは	ソーシャルワーク援助を構成する各システムと、援助者の価値、態度について検討する。	第2章第2節を精読する	60
5	ソーシャルワークの歴史①前史	社会福祉確立までの歴史、特に相互扶助から慈善・博愛事業を中心に検討を加える。	第3章第1節を精読する	60
6	ソーシャルワークの歴史②基礎の確立	専門的援助技術の確立への取り組みの中で、特にCOS運動が、近代ソーシャルワーク援助に貢献した個別記録と教育について検討する。	第3章第2節を精読する	60
7	ソーシャルワークの歴史③援助技術の確立	診断主義モデル、機能主義モデル、問題解決モデル等、現在に至るまでの各モデルの特徴を検討する	第4章第1節を精読する	60
8	ソーシャルワークの歴史④統合モデルの検討	利用者援助における複数の援助技術の必要性を検討するとともに、サービスを統合するケアマネジメントにも言及する。	第4章第2節、第3節を精読する	60
9	ソーシャルワークの歴史⑤グループの援助	グループを対象とし、グループメンバーの相互作用を活用した援助の歴史とグループワークの援助モデルについて言及する。	第4章第1節を精読する	60
10	ソーシャルワークの援助⑥地域援助	コミュニティデベロプメントから、コミュニティーオーガニゼーション、そしてコミュニティワークへの変遷について検討する。	第4章第1節を精読する	60
11	ソーシャルワーク実践と価値	ウェルフェアから、ウェルビーイングへと社会福祉の援助目標が変化したなかで、ソーシャルワーカーの価値を検討する。	第5章第1節、第2節を精読する	60
12	ソーシャルワーク実践と権利擁護	なぜ今権利擁護が必要とされるのか、我々専門職の目指す方向はどこかを検討する。エンパワメントの必要性についても検討する	第5章第3節を精読する	60
13	ノーマライゼーションとは①ミクロレベル	ソーシャルワーク援助の目的の一つであるノーマライゼーションとは、その目的と、その個人援助方法とはについて検討する。	第6章第1節、第2節の精読する	60
14	ノーマライゼーションとは②メゾレベル	ソーシャルワーク援助の目的の一つであるノーマライゼーションであるが、ここでは地域社会でのノーマライゼーションの展開を扱う	第6章第1節、第2節の精読する	60
15	ノーマライゼーションとは③マクロレベル	ソーシャルワーク援助の目的の一つは、ノーマライゼーションであるが、ここでは法律、社会制度でのノーマライゼーションの展開を扱う。	第6章第1節、第2節の精読する	60

《専門教育科目》

科目名	地域福祉の理論と方法Ⅰ			科目ナンバリング	SSPB12017
担当者氏名	小林　茂			担　当　形　態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2　・　必	開講年次・開講期	2　年　・　Ⅱ期

《授業の概要》

今日、高齢、障がい、児童、低所得という様々な分野の福祉政策・制度及び実践は、地域での展開を志向している。地域福祉は分野別の福祉政策・制度を当事者・住民の暮らしの場である地域において横断的に統合し、また、福祉政策・制度とまちづくりをつなぐものである。　本講義では分野別の狭い福祉にとらわれず、住民の暮らしからの視点、生活の全体性からの視点から地域福祉を学んでいく。

《授業外学習》

1.予習方法：事前にテキスト該当する章を読んでおくこと
2.復習方法：授業配布プリントなどを再整理し、不明な点を整理し、次回授業で質問する事。 3.その他：　学生自身の暮らしの場である地域にはどんな人々が暮らしているか、どのような地域社会であれば暮らしやすいかを日頃から考え、問題意識を養うこと。

《テキスト》

・「新・社会福祉養成講座９　地域福祉の理論と方法(第3版)」社会福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版
・適時、補助教材を配布する

《学習状況・理解度の確認》

授業中に課したレポート等には採点して返却する
時には実践事例の映像学習を行う事がある

《参考図書》

・「地域福祉論」岡村　重夫著　光生館（2009年）
・「地域福祉の理論と方法」　平野隆元著　有斐閣(2009年)
・「福祉小六法2018」(中央法規出版)

《備考》

担当教員は社会福祉士の有資格者であり、県社会福祉協議会等で地域福祉の実務経験あり。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎		住民の生活における地域の意味を理解するとともに、地域社会の特性を理解する
○		地域福祉の主体を理解し、地域福祉の推進主体について理解する
○		地域に応じた地域福祉を構築するための地方自治体の役割、地域福祉計画の意義について理解する

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試　　験	65
小テスト	0
レポート	25
発表・実技	0
授業内課題	10
その他（ ）	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習･復習等の内容	予習･復習等の時間
1	ガイダンス/地域の暮らしと福祉	私たちの暮らしが地域社会の中で成り立っていることを改めて確認します。そして地域の中で暮らしづらいとはどのような事かを考察する。	テキスト第1章第1節	90
2	地域福祉の意義と構成要素	今日の社会福祉の基本理念の1つに地域福祉が掲げられている。今日の社会福祉制度における地域福祉が果たすべき役割について理解する	テキスト第1章、第2章2節	90
3	地域福祉の歴史と鍵(キー)概念	地域福祉理論の発展過程を概観するとともに、地域福祉を支える基本的な理念と実践について理解する	テキスト第2章第1節	120
4	地域社会を理解する①	「地域」の捉え方と重層的な生活圏域の設定の意義を学び、それぞれの地域での地域福祉実践について理解する。	テキスト第2章第3節	90
5	地域社会を理解する②	各生活圏域での住民相互の働きかけ、活動のしやすさなど小地域福祉活動の実践例を踏まえながら、地域社会での福祉活動について理解する。	テキスト第2章4節	90
6	住民の主体性の支援	地域福祉における「住民主体」の意義を学び、住民の主体性支援の方法などについて理解を深める	テキスト第3章	120
7	地域福祉の推進主体①（当事者組織）	当事者の主体性向上の支援及び地域福祉の推進主体である当事者組織について学び、理解する	テキスト第6章	90
8	地域福祉の推進主体②（地域福祉推進基礎組織）	小地域福祉活動などの住民による福祉活動の意義と地域福祉を推進する地域の基礎組織の役割と意義について理解する	テキスト第6章	90
9	地域福祉の推進主体③(民生委員、保護司)	歴史的な背景を持つ、地域福祉の担い手である民生委員、保護司について、その役割と意義について理解する。	テキスト4章第5節	90
10	地域福祉の推進主体④(市民活動ーボランティア等)	地域福祉の推進主体であるボランティア、市民活動についてその意義と役割について学び、理解する	テキスト第4章4節	90
11	地域福祉の推進主体⑤（社会福祉協議会の役割）	社会福祉協議会について、歴史的経緯を踏まえ、組織特性、地域福祉における役割と機能について理解する。	テキスト第4章第２節	120
12	地域福祉の推進主体⑥(社会福祉法人など)	今日地域福祉の担い手として期待されているＮＰＯ、社会的企業、 社会福祉法人の意義と役割を理解する	テキスト第4章第3節、第6節	90
13	地方公共団体と地域福祉計画	地域福祉推進における地方公共団体の役割と意義について学び、地域福祉計画、公私協働の仕組みづくり等について理解する	テキスト第4章第1節	90
14	地域福祉の専門職とその役割	地域福祉に携わる主な専門職について学ぶとともに、それぞれの専門職の役割について理解する	テキスト第5章第5節	60
15	地域福祉の理論の整理	これまで学んできた地域福祉の理論を整理し説明することができる	授業内容の整理	90

《専門教育科目》

科目名	社会保障論Ⅰ			科目ナンバリング	SSPB12011
担当者氏名	伊藤　秀樹			担　当　形　態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2　・　必	開講年次・開講期	2　年　・　Ⅰ期

《授業の概要》
社会保障制度の理念や概念及び対象等について、欧米と日本の歴史的な展開を通して理解する。現代社会における社会保障制度の問題点を社会保険や社会扶助の構造・財源等を通して検討していく。授業はテキストを基本に展開していくが、適宜、新聞記事やビデオ教材等を活用し、身近な問題として社会保障制度の課題を受講生と共に考えていきたい。

《テキスト》
『社会保障』新・社会福祉士養成講座（12）、中央法規出版

《参考図書》
『日本公的年金制度史－戦後70年・皆年金半世紀』吉原健二・畑満　中央法規出版
授業の中で適宜紹介

《授業外学習》
準備学習（予習・復習）に加えて、
○社会保障の分野だけでなく社会生活にも関心を持ち、新聞記事などにも目を通す習慣をつける。
○ニュース等報道で興味関心を持った事項については、できるだけ早い段階で且つ詳しく調べる。
○人々の生活と社会の現状・問題がどのような関係があるかを身近なことから関心を持ち、自分なりの仮設をもつよう心掛ける。

《学習状況・理解度の確認》
毎回授業開始時に、前回の授業のポイントについての復習・確認を行う。最終回「まとめ」の授業では、これまでの授業のポイントの確認と、ルーブリック評価による相互チェックを行う。

《備考》
グループワーク討議などアクティブラーニングを導入する。授業を少しでも「双方向的」なものにするため、授業途中でも随時質問を受付る。
社会福祉士として地域でスクールソーシャルワークを行う実務経験者。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
○	2-2統計的データを理解し、加工し、活用することができる（統計分析力）	生活課題をデータ等を活用しながら客観的に理解し、状況に応じた適切な援助ができる。
○	2-4人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問	生活を理解する視点と方法を習得し、支援と自立に向けた課題を明確にできる。
◎	3-3人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創	制度としての社会資源を十分に理解し、地域や個人のニーズに適切にアプローチできる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法（%）	
試　　験	60
小テスト	0
レポート	0
発表・実技	20
授業内課題	10
その他（ルーブリック）	10
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習･復習等の内容	予習･復習等の時間
1	オリエンテーション	シラバスに基づき講義概要、講義計画、受講方法、評価について説明する。	シラバスとテキスト序章を熟読	45
2	私たちの生活と社会保障	私たちの生活をライフサイクルを通して概観し、社会保障について考えていく。	テキストｐ.1～ｐ.6予習	45
3	社会保障の理念と機能	福祉国家、基本的人権、憲法と社会保障の関係を理解し、社会保障の機能について学ぶ。	テキストｐ.7～ｐ.16予習	45
4	社会保障の歴史（１）	欧米における社会保障の歴史的展開について学ぶ。	テキストｐ.17～ｐ.24予習	45
5	社会保障の歴史（２）	日本における社会保障の歴史的展開について学ぶ。	テキストｐ.25～ｐ.40予習	45
6	社会保障制度の体系	社会保障制度の仕組み、役割、機能、給付と負担の方法について理解する。	テキストｐ.41～ｐ.49予習	45
7	社会保険の構造	年金保険、医療保険、介護保険、その他の保険の構造を理解する。	テキストｐ.50～ｐ.55予習	45
8	社会扶助の構造	公的扶助、社会手当、社会福祉におけるその他の扶助の構造を理解する。	テキストｐ.56～ｐ.59予習	45
9	社会保障の財源	社会保障の財源の規模と財源構成について学び、国民経済との関係、国民の負担率、経済効果について理解する。	テキストｐ.61～ｐ.82予習	60
10	年金保険制度の沿革と概要	年金保険制度の沿革と概要ついて理解する。	テキストｐ.83～ｐ.97予習	45
11	年金保険制度について	国民年金、厚生年金について学び、年金制度をめぐる最近の動向について理解する。	テキストｐ.98～ｐ.126予習	60
12	医療保険制度の沿革と概要	医療保険制度の沿革と概要について理解する。	テキストｐ.127～ｐ.137予習	45
13	医療保険制度について	健康保険と共済制度、国民健康保険制度、後期高齢者医療制度について学び、医療保険制度をめぐる最近の動向について理解する。	テキストｐ.138～ｐ.161予習	60
14	社会保障制度を活用した支援	実際の事例をアセスメントによりニーズを明らかにし、社会資源としての社会保障制度を活用した支援について検討していく。	アプローチの方法を検討	60
15	まとめ	これまでの授業のポイントを確認しながら復習を行う。	これまでの授業内容の整理	60

《専門教育科目》

科目名	介護概論			科目ナンバリング	STTA22003
担当者氏名	小倉　毅			担　当　形　態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2　・　選	開講年次・開講期	2　年　・　Ⅰ期

《授業の概要》
介護の理念や対象およびその理念、基本施設について学ぶ。さらに障がい等の状況等に応じた介護過程における生活支援技法や介護予防の基本的な考え方を学ぶ。
　対象者が自己決定や自己選択し、主体的に暮らすこと、生活の質を高めるための介護の本質を理解し、よりよい支援につなげる知識と生活支援技術の習得に向け段階的に学習する。

《授業外学習》
(1)予習方法:授業計画はテキストに準拠しています。該当する箇所を前もって読んでおくようにして下さい。(2)復習の方法:授業中に整理するプリントを中心に復習して下さい。また、 理解が十分でない場合には、積極的に質問して下さい。各テーマの終了時にまとめを目的とした課題を作成してもらいます。

《テキスト》
社会福祉学双書 15　介護概論
　社会福祉学習双書編集委員会編 全国社会福祉協議会

《学習状況・理解度の確認》
・質問は、授業中もしくはオフィスアワーで受け付けます。・授業中に小テストを行い解説します。

《参考図書》
①ケアの本質-生きることの意味-　ﾐﾙﾄﾝ･ﾒｲﾔﾛﾌ　ゆみる出版
②人間科学的生活支援論　黒澤貞夫　ミネルヴァ書房

《備考》
①私語をはじめ、他の受講者の迷惑なる行為は慎むこと。
②科目担当者は実務経験あり（介護福祉士資格有り。社会福祉法人瑞祥に勤務歴あり）

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	1-2 こどもの成長を願い、こどものあるがままを受けとめる	社会福祉専門職として必要な介護の歴史、機能、原則、援助の方法など福祉について理解する。
○	2-1こどもを養育する保護者の思いと役割について正しく理解する	ソーシャルワーク実践に必要な専門知識と支援の方法を習得する。
○	こどもの成長を願い、保護者と連携して子育てに取り組む	介護の理念および介護福祉実践にあり方を理解する
		ソーシャルワーク実践に必要な専門知識と支援の方法を習得する。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試　　験	60
小テスト	10
レポート	10
発表・実技	0
授業内課題	20
その他（ ）	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習･復習等の内容	予習･復習等の時間
1	オリエンテーション 人間と生活	地域包括ケアやの総合的な提供等に関する政策動向と、介護サービス提供における多職種連携について理解する。	ﾃｷｽﾄ2頁～13頁・ﾌﾟﾘﾝﾄ整理	45
2	法律の変遷から介護を考える	社会福祉士及び介護福祉士法、専門職による介護の展開及び介護職に求められる医療行為について理解する。	ﾃｷｽﾄ14頁～22頁・ﾌﾟﾘﾝﾄ整理	60
3	介護の目的	介護の原則と介護職員の倫理、自立に向けた介護、尊厳を支える介護、介護提供の場、介護の対象について理解する。	ﾃｷｽﾄ24頁～42頁・ﾌﾟﾘﾝﾄ整理	90
4	介護と保険・医療との関係	保健医療職種の専門性と役割を理解し、介護と保健・医療との連携の必要性とその方法を理解する。	ﾃｷｽﾄ44頁～68頁・ﾌﾟﾘﾝﾄ整理	90
5	利用者理解と相談援助	介護の対象となる利用者に対する自立支援を提供するため、ICFの視点による利用者理解、相談援助の原則と重要性を理解する。	ﾃｷｽﾄ70頁～84頁・ﾌﾟﾘﾝﾄ整理	90
6	コミュニケーション技術	人は、無意識・意識的なレベルでの情報伝達を繰り返す。ここでは、コミュニケーションの意義と基本的な技術の活用方法を理解する。	ﾃｷｽﾄ86頁～102頁・ﾌﾟﾘﾝﾄ整理	90
7	介護過程	介護過程における情報の収集、分析と解釈、介護計画の立案、実施、評価のプロセスについて理解する。	ﾃｷｽﾄ104頁～124頁・ﾌﾟﾘﾝﾄ整理	90
8	生活支援技術の基本（１）	要介護者が能力を発揮しながら主体的に尊厳をもって生活できるよう①利用者の自立支援と介護と住生活環境の整備について理解する。	ﾃｷｽﾄ126頁～144頁・ﾌﾟﾘﾝﾄ整理	90
9	生活支援技術の基本（２）	要介護者が能力を発揮しながら主体的に尊厳をもって生活できるよう①排泄の介護、②入浴の介護について理解する。	ﾃｷｽﾄ145頁～166頁・ﾌﾟﾘﾝﾄ整理	90
10	生活支援技術の基本（３）	要介護者が能力を発揮しながら主体的に尊厳をもって生活できるよう①身じたくの介護、②睡眠の介護について理解する。	ﾃｷｽﾄ167頁～186頁・ﾌﾟﾘﾝﾄ整理	90
11	生活支援技術の基本（4）	要介護者が能力を発揮しながら主体的に尊厳をもって生活できるよう①体位変換・移動、②住生活環境・社会生活への支援について理解する。	ﾃｷｽﾄ187頁～215頁・ﾌﾟﾘﾝﾄ整理	90
12	生活支援技術の基本（5）	健康に関する概念を理解するとともに、①利用者の健康管理、②医療が必要な利用者の介護方法について理解する。	ﾃｷｽﾄ216頁～232頁・ﾌﾟﾘﾝﾄ整理	90
13	生活支援技術の基本（6）	①緊急・事故時の対応、②災害時における介護職員の対応、③家族への支援、④福祉用具の活用方法について理解する。	ﾃｷｽﾄ233頁～259頁・ﾌﾟﾘﾝﾄ整理	90
14	終末期の介護	死への心理過程と人生の最終段階における医療の決定プロセスに関するガイドラインについて理解する。	ﾃｷｽﾄ260頁～276頁・ﾌﾟﾘﾝﾄ整理	90
15	認知機能の低下した人の理解	認知症（若年性認知症を含む）の理解と生活支援及び家族支援方法について理解する。	ﾃｷｽﾄ278頁～288頁・ﾌﾟﾘﾝﾄ整理	90

《専門教育科目》

科目名	精神保健福祉相談援助の基盤（専門）			科目ナンバリング	SPSC22028
担当者氏名	朝比奈　寛正			担　当　形　態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2　・　選	開講年次・開講期	2　年　・　Ⅱ期

《授業の概要》
精神保健福祉士が行う相談援助の対象と相談援助の概要、精神障害者の相談援助に係る専門職（精神科病院、精神科診療所を含む）の概念と範囲について理解する。また、精神障害者の相談援助における権利擁護の意義と範囲や、精神保健福祉活動における総合的かつ包括的な援助と多職種連携（チームアプローチを含む）の意義と内容について学ぶ。

《授業外学習》
授業中にレジメを配布するので熟読すること。
精神保健福祉領域専用の予習・復習ノートを作成すること。
各回の講義の前にテキストの該当箇所に目を通し、予習しておくこと。

《テキスト》
『新・精神保健福祉士養成講座３　精神保健福祉相談援助の基盤（基礎・専門）　第２版』日本精神建研福祉士養成校協会編　中央法規　2015年

《参考図書》
日本精神保健福祉士協会50年史
精神保健福祉士業務指針及び業務分類

《学習状況・理解度の確認》
授業中のみならず、オフィスアワーでも質問を受け付ける。
授業終了後に課題を出すので次回までに回答すること。
必要に応じて、回答に対するレスポンスも行う。
ルーブリック評価による相互チェック。

《備考》
連絡先・課題提出先：asahina@hyogo-dai.ac.jp
グループ討議やロールプレイなどのアクティブラーニング導入
科目担当者は、精神保健福祉士として精神科病院の勤務歴のある実務経験者。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	1-5自己の言動や役割に対して責任を持とうとする態度（社会的責任）	精神保健福祉士が行う相談援助活動の対象と相談援助の基本的考え方を説明し自分の意見が言えるようになる。
○	1-2文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解）	相談援助に係わる専門職の概念と範囲について説明し自分の意見が言えるようになる。
○	1-2文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解）	精神障害者の相談援助における権利擁護の意義と範囲について説明し自分の意見が言えるようになる。
		精神保健福祉活動における総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容を説明し意見が言えるようになる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試　　験	50
小テスト	0
レポート	0
発表・実技	10
授業内課題	30
その他（ルーブリック）	10
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習･復習等の内容	予習･復習等の時間
1	オリエンテーション	本講義の概要と目標を理解し、毎回の学習内容と学習方法を確認する。	テキストの通読	90
2	精神保健福祉の歴史	精神保健医療福祉の歴史的変遷を学ぶ。	文献等を熟読	60
3	精神保健福祉の役割と意義	精神保健福祉領域におけるソーシャルワーカーの役割と意義について理解する。	テキストpp1~pp26予習・復習	60
4	精神保健福祉の専門性	精神保健福祉領域におけるソーシャルワーカーの専門性を社会福祉領域や医療ソーシャルワークと比較検討する。	テキストpp27~37予習・復習	60
5	相談援助の定義と概念	国際ソーシャルワーカー連盟（IFSW）の定義を理解する。	テキストpp53~77予習・復習	60
6	相談援助の価値と理念	国際ソーシャルワーカー連盟（IFSW）と倫理綱領を基に価値と理念を学ぶ。	テキストpp78~97予習・復習	60
7	精神保健福祉の課題	精神保健福祉領域特有の課題についてグループディスカッションを行う。	文献・時事問題のレビュー	60
8	精神保健福祉分野における相談援助の体系	精神保健福祉領域における個別支援や集団支援、間接支援などを学ぶ。	テキストpp135~165予習・復習	60
9	精神保健福祉分野における専門職の概念と範囲	精神保健福祉領域における他職種の概念理解する。	テキストpp166~205予習・復習	60
10	精神保健福祉分野における権利擁護	時事問題も含めた精神保健福祉領域特有の人権問題について学ぶ。	テキストpp206~255予習・復習	60
11	精神保健福祉の現状	我が国における精神保健福祉の現状についてグループディスカッションを行う。	文献・時事問題のレビュー	60
12	精神障害者の地域移行支援・地域定着支援	精神障害者地域移行支援・地域定着支援を実践例を基に事例検討する。	文献等を熟読	60
13	精神保健福祉分野における多職種連携	精神保健福祉領域における多職種を実践例を基に事例検討する。	テキストpp255~290予習・復習	60
14	事例検討	精神障害者の事例を基にグループディスカッションを行い、偏見や差別を解消していく。	文献等を熟読	60
15	まとめ	精神保健福祉相談援助の基盤を総括し、精神保健福祉士の果たす役割の重要性について理解する。	配布資料及びテキストの熟読	90

《専門教育科目》

科目名	精神保健福祉に関する制度とサービスⅠ			科目ナンバリング	SPSC22024
担当者氏名	中村　友昭			担　当　形　態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2　・　選	開講年次・開講期	2　年　・　Ⅰ期

《授業の概要》
精神障害者に関連する制度及びサービスは多岐にわたっており、また近年、大きな変化があったものも多い。できるだけ具体的な説明を行い、実例も示しながら、わかりやすい学習の場としたい。

《授業外学習》
事前にテキストに目を通しておくこと。まぎわらしい専門用語が多いので、ノートにまとめたり、索引を使ってこまめにチェックし意味を確かめるなどしてほしい。

《テキスト》
新・精神保健福祉士養成講座　第６巻
「精神保健福祉に関する制度とサービス」最新版
中央法規出版

《学習状況・理解度の確認》
理解度を確認するため短文のレポートの提出を求める。

《参考図書》

《備考》
科目担当者は実務経験者（精神保健福祉士資格有り。精神科病院・障害者支援施設・市役所障害福祉担当課勤務歴有り。）である。知識とともにできるだけ現場の感覚を伝えられるように授業をすすめる。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
○	2-2社会資源を理解し地域と関わる力	精神障害者の人たちが利用できる制度やサービスを理解し、具体的にどのように利用できるか説明できる。
◎	2-3人々の生活理解と課題発見力	精神障害の特性を理解し、制度やサービスを利用するうえで、支援者としてどのよう配慮が必要か理解し説明できる。
○	2-4地域や人々についての課題解析力	精神障害者へのインフォーマルな社会資源の特性を知り地域でどのような活用が可能か説明できる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試　　験	50
小テスト	0
レポート	30
発表・実技	0
授業内課題	20
その他（ ）	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習･復習等の内容	予習･復習等の時間
1	社会保障全体からみた精神保健福祉に関する制度	精神保健福祉との関連において、社会保障制度のあり方を構造的に理解する。	テキストの該当箇所の通読	60
2	精神保健福祉法の成立までの経緯	精神保健福祉法の成立までの経緯を、明治から精神保健法成立までさかのぼって学習し、精神障害者の人権の観点から、その意義を考察する。	テキストの該当箇所の通読	60
3	精神保健福祉法の成立およびその後の変化	精神保健福祉法の成立とその後の改正について学習し、精神障害者の人権の観点から、その意義を考察する。	テキストの該当箇所の通読	60
4	精神保健福祉法の構成①	精神保健福祉法について、条文も参照しながら学習する。また、精神医療審査会や精神保健指定医等について学習する。	テキストの該当箇所の通読	60
5	精神保健福祉法の構成②	精神保健福祉法について、条文等を具体的に確認しながら、精神障害者の人権確保の観点からその意義について考察する。	テキストの該当箇所の通読	60
6	精神保健福祉法における精神保健福祉士の役割	精神障害者の基本的人権を擁護し、社会的復権を進める立場から、精神保健福祉法における精神保健福祉士の役割について考える。	テキストの該当箇所の通読	60
7	精神保健福祉の動向	精神保健福祉の動向について、その社会的背景も考察し学習する。	テキストの該当箇所の通読	60
8	障害者基本法と精神障害者施策とのかかわり	障害者基本法の成立の背景を確認し、障害者基本法が精神障害者施策にもたらした影響について学習する。	テキストの該当箇所の通読	60
9	障害者総合支援法と精神保健福祉①	障害者総合支援法の成立の背景について考察し、成立により精神保健福祉にもたらされた変化について学習する。	テキストの該当箇所の通読	60
10	障害者総合支援法と精神保健福祉②	障害者総合支援法における精神障害者の福祉サービスについて学習する。	テキストの該当箇所の通読	60
11	精神障害者等を対象とした福祉施策・事業①	国、都道府県、市町村における精神障害者福祉施策について学習する	テキストの該当箇所の通読	60
12	精神障害者等を対象とした福祉施策・事業②	「精神障害者へのアウトリーチ支援」「ひきこもり支援施策」「発達障害者支援施策」等について学習する。	テキストの該当箇所の通読	60
13	精神障害者等を対象とした福祉施策・事業③	「高次脳機能障害者の支援施策」「障害者虐防止施策」「障害者差別解消施策」「アルコール依存薬物依存支援施策」等について学習する。	テキストの該当箇所の通読	60
14	精神障害者等の福祉制度の最近の動向	近年成立した社会保障制度に関係する法制度について学習する。	テキストの該当箇所の通読	60
15	Ⅰ期のまとめ	テストでⅠ期の授業の理解度を確認し、まとめを行う。	Ⅰ期全体の復習	120

《専門教育科目》

科目名	保育原理			科目ナンバリング	YY-L11002
担当者氏名	澤田　真弓			担　当　形　態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2　・　必	開講年次・開講期	1　年　・　Ⅰ期

《授業の概要》
保育という営みを制度や歴史的変遷、内容と方法、子どもの発達過程などの主要な観点から考察し、保育者としての基礎的知識の獲得を目指す。

《授業外学習》
″テキストの該当箇所および事前配布資料は熟読しておくこと。授業内容を丹念に振り返り、整理しておくこと″

《テキスト》
『MINERVA はじめて学ぶ保育　第１巻　保育原理』ミネルヴァ書房　『幼稚園教育要領解説』『保育所保育指針解説書』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館

《学習状況・理解度の確認》
分からないことは随時質問を受け付ける。

《参考図書》
必要に応じて紹介する

《備考》
科目担当者は実務経験者（保育士資格、幼稚園教諭免許有り。保育園、幼稚園勤務歴有り。）である。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	1-1子どもの発達を理解する力	保育の意義と特質について理解できる
○	2-1幼児教育の方法を身につける	保育を取り巻く現状と課題について主体的に考えることができる

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試　　験	70
小テスト	0
レポート	0
発表・実技	0
授業内課題	30
その他（ ）	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習･復習等の内容	予習･復習等の時間
1	オリエンテーション	保育の意義と目的について学ぶ。	授業内容の振り返り	45
2	保育の基盤としての子ども観	様々な子どものとらえ方、保育者として備えておきたい子ども観について学ぶ。	授業内容の振り返り	45
3	保育の歴史的変遷①	西洋の保育の歴史について学ぶ。	授業内容の振り返り	45
4	保育の歴史的変遷②	日本の保育の歴史について学ぶ。	授業内容の振り返り	45
5	幼稚園・保育所・認定こども園の意義と役割①	幼稚園・保育所・認定こども園の特質について理解する。	授業内容の振り返り	45
6	幼稚園・保育所・認定こども園の意義と役割②	幼稚園・保育所・認定こども園の意義と役割について理解する。	授業内容の振り返り	45
7	保育の内容と方法①	養護的側面と教育的側面を併せ持つ保育の特質について学ぶ。	授業内容の振り返り	45
8	保育の内容と方法②	子どもの生活と５領域の関係について学ぶ。	授業内容の振り返り	45
9	子どもの発達と保育①	環境を通して行う教育の特質について学ぶ。	授業内容の振り返り	45
10	子どもの発達と保育②	遊びを中心とした総合的な指導とはどのようなものかを学ぶ。	授業内容の振り返り	45
11	保育の計画と評価①	全体的な計画・教育課程と指導計画について理解する。	授業内容の振り返り	45
12	保育の計画と評価②	評価の観点と方法について理解する。	授業内容の振り返り	45
13	多様な保育ニーズと子育て支援	多様化する保育ニーズと子育て支援の現状を理解する。	授業内容の振り返り	45
14	保育の現代的課題	現行の保育を取り巻く様々な課題について考察する。	授業内容の振り返り	45
15	授業のまとめ	授業全体の総括を行う。	授業内容の振り返り	45

《専門教育科目》

科目名	保育内容・健康			科目ナンバリング	YY-S22003
担当者氏名	黒崎　令子			担　当　形　態	単独
授業方法	演習	単位・必選	1　　・　選	開講年次・開講期	1　年　・　　Ⅰ期

《授業の概要》
乳幼児の発達の特徴を踏まえ、模擬保育によるふさわしい運動遊び、生活習慣、保育者の役割を理解する。乳幼児の身体や心、子どもを取り巻く環境に関心を持ち、その問題点やよりよい指導法（情報機器および教材の活用を含む）を考えあう。

《授業外学習》
〇準備学習をすること（教科書の次回の学びの箇所をよく読んで来る事）。
〇日頃から「健康」に関する時事問題について意識を高め、情報を収集しておく事。
〇意識して子どもに触れる機会を持ち、子どもを知る努力をする事。
〇子どもの様子を観察して、学んだことと重ねることができるようにすること。

《テキスト》
子どものこころとからだを育てる　保育内容「健康」〔第２版〕編著　高内正子保育出版社

《学習状況・理解度の確認》
レポートにコメントを付して返却すると共に、返却時に講評を行い次に繋げる。
わからない事などの質問は授業終了後に受け付ける。

《参考図書》
幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

《備考》
子どもの「健康」を理解するために、日頃から自分自身の健康に対する意識を高めておくこと。　健康的な生活を心がけること。科目担当者は、園長経験のある実務経験者。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	1-1子どもの発達を理解する力	幼児の特性を理解した上で、幼児教育の基本、領域「健康」のねらいおよび内容並びに全体構造が理解できる。
○	1-2子どもの心身の状態を把握する力	乳幼児の安全教育・健康教育に関する基本的な考え方を理解し、基本的な生活習慣とその意義が説明できる。
○	2-2保育技術を身につける	指導案の構造を理解し、年齢にあった具体的な保育を想定し、適切な教材の活用をした指導案を作成できる。
		乳幼児の身体の特徴を説明できる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試　　験	60
小テスト	0
レポート	20
発表・実技	10
授業内課題	10
その他（ ）	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習･復習等の内容	予習･復習等の時間
1	オリエンテーション　　乳幼児期の健康とは	健康の定義、乳幼児期の健康の意義　　健康保育・安全保育の概念	テキストP3、4を通読	45
2	領域「健康」のねらい①	領域「健康」のねらいの趣旨に基づく教育内容　　ねらい（１）（２）について	テキストNo. １～７を通読	45
3	領域「健康」のねらい②	領域「健康 」のねらいの趣旨に基づく教育内容 ねらい（３）について	資料,テキストNo. １～７を通読	45
4	実際の保育に触れる	保育現場「公開保育研究」（視聴覚保育教材の活用）　　子どもの実態と保育内容「健康」指導内容の検討	配布資料を通読	45
5	子どもの健康と生活	食物アレルギー、子供の生活習慣病、生活リズムの重要性について	テキストNo.27～33を通読	45
6	子どもの遊びと健康	健康と自然環境について、自然の中での子供の遊び、幼児期に触れる自然	テキストchapter3,5を通読	45
7	保育体験	模擬保育	テキストchapter6,8を通読	60
8	子どもの運動指導と健康①	運動発達の適時性、年齢、発達にあった運動遊びの意義	テキストNo.49,52～60を通読	45
9	子どもの運動指導と健康②	情報機器の活用　子供の運動指導の実際　情報機器を用いた指導案作成①　乳児	テキストNo.8～26を通読	60
10	子どもの運動指導と健康③	情報機器の活用　子供の運動指導の実際　情報機器を用いた指導案作成②　幼児	資料,テキストchapter6,8を通読	60
11	子どもの健康的な生活	子どもの生活習慣の形成、確立のための指導と援助	資料,テキストNo.27～33を通読	45
12	子どもの遊びと健康	子どもが自主的に作る生活の場の必要性とその指導や援助	chapter1,5,6を通読	45
13	子どもといのちの教育	子どもといのちの出会い、子どもと話すいのち、子どもにいのちの大切さを伝える指導のあり方	テキストNo.85～89を通読	60
14	子どもの安全教育	子どもの健康と安全教育のあり方	テキストNo.91～96を通読	75
15	まとめ	領域「健康」とは、領域「健康」を通して見える課題と指導内容（学習のまとめ）	配布資料、テキスト振り返り	90

《専門教育科目》

科目名	保育内容・人間関係			科目ナンバリング	YY-S22004
担当者氏名	鎮　朋子			担　当　形　態	単独
授業方法	演習	単位・必選	2　・　選	開講年次・開講期	1　年　・　Ⅰ期

《授業の概要》
授業は乳幼児期の人間関係の発達段階を理解することから始める。特に「あそび」の役割と子どもの発達について学びを深める。また、保育者間の人間関係、保育者と保護者間の人間関係にも焦点を当てて保育者自身の人間関係について考察する。講義はテキストからの学びと、事例検討やグループ討議等のアクティブラーニングを取り入れ、人間関係を育むための具体的なあそびの立案をしながら進めていく。

《授業外学習》
①授業前：テキストの予習を期待する。②授業後：授業内容の復習と、自身の人との関わりを見つめなおすことを通して、よりよい保育者を目指すようにする。

《テキスト》
対話的・深い学びの保育内容 人間関係　塚本美知子　編著
萌文書林　2018

《学習状況・理解度の確認》
授業内で行う演習の感想を通して把握する。また、随時質問を受け付ける。

《参考図書》
保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼穂連携型認定こども園保育・教育要領

《備考》
演習科目なので、グループワークや事例検討のアクティブラーニングは積極的な姿勢で臨むこと。科目担当者は保育士として児童福祉施設での実務経験がある。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	1-1子どもの発達を理解する力	子どもの年齢に応じた発達や興味関心を理解することができる。
○	1-3子どもと環境の関係を理解する力	子どもと遊びの関係を理解し、実践できることができる。
○	2-4保護者の心情を理解し支援できる	保護者との人間関係を維持・展開できる。
○	3-1多職種との連携ができる力	他職種との連携、人間関係を展開できる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試　　験	50
小テスト	0
レポート	0
発表・実技	50
授業内課題	0
その他（ ）	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習･復習等の内容	予習･復習等の時間
1	オリエンテーション	オリエンテーション　授業概要の説明から、講義の全体像の把握、到達目標を理解する。	教科書第1章	45
2	保育内容人間関係の目指すもの	保育内容人間関係の目指すものは何なのか、保育内容人間関係の歴史的変遷を概観し、理解する。	教科書第1章	45
3	現代社会と子どもの人間関係	社会環境と子どもの人間関係のかかわりを理解する。	教科書第2章	45
4	道徳性について	幼児期に育てるべき道徳性について学び、理解する。	教科書第3章	45
5	乳児期の人間関係	幼児期の人間関係の特徴について、、仲間とのかかわりを中心に理解する。。	教科書第4章	45
6	幼児期の人間関係	乳幼児期におけるあそびと子どもの関係性の発達について理解する。	教科書第5章	45
7	あそびと人間関係	乳幼児期におけるあそびと子どもの関係性の発達について理解する。	教科書第6章	45
8	気になる子どもについて	保育における気になる子どもへの理解と、関係性について理解する。	教科書第7章	45
9	保育者間の人間関係	保育者間の人間関係について考え、よりよい職場環境の形成について考える。	前回の振り返り	45
10	保育者と保護者の人間関係	保護者との人間関係について考え、子どものために望ましい連携について考察を深める。	教科書第8章	45
11	保育者と地域・関係機関との人間関係	地域の人、機関との連携や日常的かかわりについて理解する。	教科書第8章	45
12	自己理解のワーク	グループワークを通して、自己理解を促進し自身への洞察を深める。	前回の振り返り	45
13	関係性を学ぶグループワーク	グループワークを通して、自身の関係性の持ち方を知り、自己理解を深める。	前回の振り返り	45
14	事例検討	グループで事例検討することで、人との関係性、子どもの見方を学ぶ。	前回の振り返り	45
15	まとめ	子どもの人間関係を育むとはどのようなことなのか、授業を振り返り考察することができる。	これまでの振り返り	45

《専門教育科目》

科目名	保育内容・言葉			科目ナンバリング	YY-S22006
担当者氏名	小林　みどり			担　当　形　態	単独
授業方法	演習	単位・必選	2　・　選	開講年次・開講期	1　年　・　Ⅰ期

《授業の概要》
領域「言葉」のねらいと内容を理解し、乳幼児期の言葉の発達過程や乳幼児の豊かな言葉を育む保育を行うための知識や技術（情報機器及び教材の活用を含む）、保育者としての基本姿勢、遊びとしての環境構成のあり方、保育展開の方法などを学ぶ。

《授業外学習》
・絵本を含む、様々な児童文化財に親しむ。
・言葉に関する感覚や自身の言葉を豊かにするための日々の気づきを大切にする。

《テキスト》
『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』及び各解説書

《学習状況・理解度の確認》
・教材製作や教材に直接触れることを通し、実践的に理解できるようにする。

《参考図書》

《備考》
科目担当者は、幼稚園教諭として幼稚園勤務歴のある実務経験者である。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	1-1子どもの発達を理解する力	領域「言葉」のねらいと内容および、乳幼児期の言葉の発達過程を理解する。
○	2-1幼児教育の方法を身につける	領域「言葉」のねらいと内容をふまえた保育指導案作成や保育展開の方法を理解する。
○	2-2保育技術を身につける	乳幼児の言葉に対する豊かな感性を育むための知識を基盤とした保育実践力を獲得する。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試　　験	50
小テスト	0
レポート	0
発表・実技	30
授業内課題	20
その他（ ）	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習･復習等の内容	予習･復習等の時間
1	オリエンテーション	本科目の目的と内容を理解する。	配布プリントの復習	45
2	領域「言葉」のねらいと内容①	幼稚園教育要領・保育所保育指針等における領域「言葉」の取り扱いとの歴史的変遷を知る。	配布プリントの復習	45
3	領域「言葉」のねらいと内容②	保育事例から、領域「言葉」の実践的理解を深める。	配布プリントの復習	45
4	ことばの発達①乳児期	乳児期のことばの発達について学ぶ。	配布プリントの復習	45
5	ことばの発達②幼児期	幼児前期のことばの発達について学ぶ。	配布プリントの復習	45
6	ことばの発達③幼児期	幼児後期のことばの発達について学ぶ。	配布プリントの復習	45
7	子どもの言葉を育む児童文化財・遊び①絵本	子どもと絵本の出会いについて実践を通して学ぶ。	実践の振り返り	45
8	子どもの言葉を育む児童文化財・遊び②絵本	乳幼児期の様々な絵本について学び、ミニ絵本を制作する。	ミニ絵本制作	120
9	子どもの言葉を育む児童文化財・遊び③わらべ歌	わらべ歌や様々なことば遊び、手遊びなどについて学ぶ。	実践の振り返り	45
10	子どもの言葉を育む児童文化財・遊び④人形劇	人形劇やパネルシアターについて学ぶ。	実践の振り返り	45
11	子どもの言葉を育む児童文化財・遊び⑤お話遊び	子どものことばとお話遊び（劇遊び）について学ぶ。	実践の振り返り	45
12	領域「言葉」と保育①指導案作成	領域「言葉」を中心とした模擬保育の指導案を作成する。	指導案作成	90
13	領域「言葉」と保育②模擬保育Ⅰ	作成した指導案に基づいて模擬保育を行う。	模擬保育振り返り	45
14	領域「言葉」と保育③模擬保育Ⅱ	作成した指導案に基づく模擬保育の評価を行う。	模擬保育振り返り	45
15	まとめ	授業の振り返りを行う。	配布プリントの復習	45

《専門教育科目》

科目名	相談援助			科目ナンバリング	YK_S22015
担当者氏名	大西　雅裕			担　当　形　態	単独
授業方法	演習	単位・必選	1　・　選	開講年次・開講期	2　年　・　Ⅰ期

《授業の概要》
相談援助（ソーシャルワーク）活動は、知識はもちろんのこと、援助者にとって必要となる態度、姿勢を身につけることが大切である。本演習では、講義とワーク等を取り入れた演習方式を組み合わせて、援助者にとって必要な技能、技術を習得することを目指す。

《授業外学習》
講義については、テキストを熟読し、予習、復習をしてください。特に復習に力を入れるように。

《テキスト》
大嶋恭二・金子恵美 編著「相談援助」建帛社
ISBN：978-4-7679-3289-7

《学習状況・理解度の確認》
授業時に学習習熟度のレポートテストを行う。

《参考図書》
適宜紹介する。

《備考》
社会福祉協議会の実務経験のある教員による授業科目

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	2-4保護者の心情を理解し支援できる	保育実践現場での相談支援の実際を理解でき、保護者への支援の方法が理解できる。
○	3-1多職種との連携ができる力	子ども及び保護者の地域社会生活の現状を理解し多種多様な社会資源を活用できる、他の保育士とも連携ができる。
○	3-2社会資源を理解し活用できる力	親や保護者へ実際に活用できる社会資源について理解し適した形態方法にして利用者に提供できる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試　　験	0
小テスト	0
レポート	85
発表・実技	10
授業内課題	5
その他（ ）	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習･復習等の内容	予習･復習等の時間
1	ガイダンス	相談援助とは何か、また保育の領域での相談援助の役割について。	保育領域での役割を復習する。	45
2	相談援助の概念	相談援助の定義について学ぶ。	テキストの予習と授業の復習	60
3	相談援助の概要①	相談援助の歴史的経過とその定義について学習する。	テキストの予習と授業の復習	75
4	相談援助の概要②	相談援助の歴史的経過とその定義について学習する。	テキストの予習と授業の復習	75
5	相談援助の概要③	ソーシャルワークの定義とグローバル定義について。	テキストの予習と授業の復習	90
6	相談援助の実践方法	ソーシャルワークの実践方法について学習する。	テキストの予習と授業の復習	60
7	相談援助の展開過程	ソーシャルワーク実践がどのような展開過程で行われているかを学ぶ。	テキストの予習と授業の復習	75
8	相談援助の体系	ソーシャルワークのカテゴリーとその領域について。	テキストの予習と授業の復習	60
9	相談援助の基本原則①	相談援助の価値観について演習を通して学ぶ。	テキストの予習と授業の復習	45
10	相談援助の基本原則②	相談援助の価値観について演習を通して学ぶ。	テキストの予習と授業の復習	45
11	相談援助の技術とその技法	自己覚知等の技法について説明し、その必要性について学ぶ。	テキストの予習と授業の復習	60
12	コミュニケーション面接技法①	コミュニケーション面接技法を紹介し、実際に行う。	テキストの予習と授業の復習	60
13	コミュニケーション面接技法②	コミュニケーション面接技法を紹介し、実際に行う。	テキストの予習と授業の復習	60
14	相談援助の専門職と保育士	ソーシャルワーク実践が行われる機関とその専門職及び保育士等の担い手について理解を深める。	授業内容の復習を行う。	60
15	学習のまとめ	相談援助についてのまとめを行い、保育士として必要となる援助技術や技法についてまとめる。	まとめ内容をしっかりと復習	60

《専門教育科目》

科目名	社会的養護内容			科目ナンバリング	YK_S22018
担当者氏名	藤本　政則			担　当　形　態	単独
授業方法	演習	単位・必選	1　　・　選	開講年次・開講期	2　年　・　　Ⅱ期

《授業の概要》
今日の子育て家庭の全体的な状況を説明し、社会的養護が必要となる養護問題の現状や背景等を理解する。また社会的養護体系についても説明し、保育所以外の児童福祉施設の役割やその養護の実際について理解する。さらにそこでの援助者としての役割についても理解する。

《授業外学習》
毎回の授業前に、各テーマに応じた資料や文献を読む等事前学習に取り組むこと。
授業後、授業内容を振り返り、興味関心を抱いたことや疑問に感じたことについて事後学習を行うこと。

《テキスト》
なし。適宜レジメ等を配布する。

《学習状況・理解度の確認》
分からないことはオフィスアワー等で質問を受け 付ける。授業の到達目標に対しては、全体講評を行い、次 年度目標に反映させる。

《参考図書》

《備考》
科目担当者は、児童福祉施設の施設長を務める実務経験者である。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	2-3多様な子どもの発達を支援できる	様々な課題を抱える子どもを理解し、適切な支援について説明できる。
○	3-1多職種との連携ができる力	児童福祉の理念を理解するとともに、チームアプローチにおける自己の役割を説明できる。
○	3-2社会資源を理解し活用できる力	児童福祉法体制や児童福祉機関等、関係機関の役割と連携について説明できる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試　　験	50
小テスト	0
レポート	20
発表・実技	20
授業内課題	0
その他（ ）	10
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習･復習等の内容	予習･復習等の時間
1	社会的養護とは	社会的養護の概念と概要について学ぶ。	授業内容の振り返りと目標設定	45
2	家庭や社会の役割①	子どもにとって家庭や社会の役割について考える。	授業内容の振り返りと目標設定	45
3	家庭や社会の役割②	社会の役割と児童養護について考える。	授業内容の振り返りと目標設定	45
4	社会的養護を必要とする子どもたち	児童相談所や児童福祉施設などからの支援を必要とする子どもや家庭について理解する	授業内容の振り返りと目標設定	45
5	児童養護の歴史①－欧米の児童養護の変遷－	欧米における児童養護の変遷を理解する。	授業内容の振り返りと目標設定	45
6	児童養護の歴史②－日本の児童養護の変遷－	日本における児童養護の変遷を理解する。	授業内容の振り返りと目標設定	45
7	児童養護の領域－養護系施設①－	児童養護施設の対象や目的について理解する。	授業内容の振り返りと目標設定	45
8	児童養護の領域－養護系施設②－	児童養護施設の処遇内容等について理解する。	授業内容の振り返りと目標設定	45
9	児童養護の領域－養護系施設③－	乳児院、母子生活支援施設の対象や目的、処遇内容等について理解する。	授業内容の振り返りと目標設定	45
10	児童養護の領域－障がい系施設－	障害児入所施設等の対象や目的、処遇内容等について理解する。	授業内容の振り返りと目標設定	45
11	児童養護の領域－その他の施設①－	児童自立支援施設の対象や目的、処遇内容等について理解する。	授業内容の振り返りと目標設定	45
12	児童養護の領域－その他の施設②－	児童心理治療施設の対象や目的、処遇内容等について理解する。	授業内容の振り返りと目標設定	45
13	家庭養護としての里親養育①	家庭養育の代表としての里親養育についての基礎知識を習得する。	授業内容の振り返りと目標設定	45
14	家庭養護としての里親養育②	里親養育の実際を学び、その意義と課題について習得する。	授業内容の振り返りと目標設定	60
15	学習のまとめ	これまでの授業の振り返りを行い、社会的養護の課題について考える。	授業内容の振り返りと目標設定	90

《専門教育科目》

科目名	子育て支援地域活動			科目ナンバリング	YR-S22024
担当者氏名	小林　みどり			担　当　形　態	単独
授業方法	演習	単位・必選	2　　・　選	開講年次・開講期	2　年　・　　Ⅱ期

《授業の概要》
子育て支援の理念や制度、歴史的経緯、子育て支援の現状を学び、地域や保護者のニーズに応じた子育て支援のあり方を理解するとともに、地域の子育て支援施設での実践を中心に子育て支援の実践経験を深め、実践的知識や技術につながる素地を培う。

《授業外学習》
・子育て支援に関する社会的現状を、様々な情報を元に理解しておくこと。
・子育て支援地域活動に参加する際には、企画・立案を確実に行い、十分に準備をして臨むこと。

《テキスト》
適宜、資料を配布する。

《学習状況・理解度の確認》
・授業や子育て支援体験後に提出された小レポートは、コメントを添えて返却し、学びの状況を確認する。
・企画・立案については、必要に応じて授業時間外の事前指導に対応する。

《参考図書》

《備考》
・科目担当者は、実務経験者（幼稚園勤務歴あり）である。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	3-4地域の子育て支援に貢献する力	子育て支援地域活動を企画、立案、実践することを通して、子育て支援の実践力を身に付ける。
○	1-3子どもと環境の関係を理解する力	地域子育て支援の実践力の基礎となる様々な課題や地域の子育て支援拠点の取り組みについて理解する。
○	2-4保護者の心情を理解し支援できる	個々の保護者への個別対応を経験し、保護者のニーズを踏まえた子育て支援について理解する。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試　　験	0
小テスト	0
レポート	25
発表・実技	20
授業内課題	25
その他（ ）	30
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習･復習等の内容	予習･復習等の時間
1	子育て支援が求められる社会的背景	子育て支援が求められるようになった社会的背景や子育ての歴史について学ぶ。	資料の確認	45
2	子育て支援に関する制度・施策の展開	日本の子育て支援制度の変遷と現状について学ぶ。	資料の確認	45
3	実践演習の企画・立案	グループごとに、子育て支援地域活動実習の企画・立案を行う。	企画・立案の事前準備	45
4	実践演習に向けての教材研究	企画・立案をもとに、グループごとに具体的な実践準備を行う。	教材作成の材料・用具の準備	45
5	実践演習①	実践演習①	実践演習の振り返り	45
6	実践演習②	実践演習②	実践演習の振り返り	45
7	実践演習③	実践演習③	実践演習の振り返り	45
8	実践演習④	実践演習④	実践演習の振り返り	45
9	実践演習⑤	実践演習⑤	実践演習の振り返り	45
10	実践演習⑥	実践演習⑥	実践演習の振り返り	45
11	実践演習⑦	実践演習⑦	実践演習の振り返り	45
12	実践演習⑧	実践演習⑧	実践演習の振り返り	45
13	実践発表の準備	グループごとに実践演習の学びと成果を発表するための準備を行う。	発表資料の準備・作成	45
14	実践発表	グループごとに実践演習の学びと成果を発表する。	発表準備	60
15	まとめ	授業の振り返りを行う。	レポート作成	120

《専門教育科目》

科目名	社会保障論Ⅰ			科目ナンバリング	YF_L12005
担当者氏名	谷口　泰司			担　当　形　態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2　・　必	開講年次・開講期	3　年　・　Ⅰ期

《授業の概要》
現代社会においては、私たち全ては何らかの社会保障のもとに安心した生活を営んでいる。社会保障の仕組みを正しく理解することは、子育てと生計維持の両立に悩む保護者に貴重な助言を与えるとともに、自身の生活の見通しを立てるためにも有効である。

《授業外学習》
日々の生活に社会保障は密接に関連している。医療機関の受診時の医療保険または医療扶助、アルバイト学生の場合は労災保険など、日常生活における諸制度について少し立ち止まるだけでも実際を伴った学習となる。

《テキスト》
指定しない。毎回の講義ごとに配布する資料を用いる。

《学習状況・理解度の確認》
講義時における質疑応答を通じて確認していく。

《参考図書》
社会保障　第４版（中央法規）

《備考》
制度や法律に完全なものは一つもない。また社会保障のあり方に唯一絶対のものはない。この事をふまえ常に講義内容を批判するという姿勢で臨むことが大事である。行政職の実務経験者である。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
	3-2社会資源を理解し活用できる力	暮らしを支える様々な制度等について説明できる。
	3-3多様な文化を理解する力	社会保障の理念と意義について説明できる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試　　験	80
小テスト	0
レポート	0
発表・実技	0
授業内課題	20
その他（ ）	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習･復習等の内容	予習･復習等の時間
1	オリエンテーション(社会保障とは何か)	講義全体の流れとスケジュール、聴講に際しての留意点を理解する。	講義内容の整理	45
2	ライフステージと社会保障	ライフステージごとに異なる社会保障の仕組みを理解し、自己実現を図るための社会保障の必要性を説明できる。	講義内容の整理	45
3	社会保障の沿革	社会保障が今日の姿となるまでに道程を理解するとともに、今日の状況について説明できる。	講義内容の整理	45
4	医療保険制度・医療扶助	各種医療保険の概要を理解するとともに、国保及び後期高齢者医療保険から排除された場合の医療扶助を含む医療保障の全体像を説明できる。	講義内容の整理	45
5	年金保険制度（高齢）	老齢基礎年金・老齢厚生年金の制度を理解するとともに、企業年金を含めた老齢年金の概要と受給者の実態を説明できる。	講義内容の整理	45
6	年金保険制度（障害・遺族）	障害・遺族年金の制度を理解するとともに、障害年金を巡る都道府県格差の実態について説明できる。	講義内容の整理	45
7	社会手当	社会手当の目的・対象者等の違いと併給の可否等について整理し、保護者に対し適切な助言を行うことができる。	講義内容の整理	45
8	介護保険制度・介護保障	介護保険制度の輪郭を理解するとともに、他法制度による救済の状況を理解し、保護者等に説明できる。	講義内容の整理	45
9	雇用保険制度・求職者支援	失業時等における雇用保険制度の機能と給付等について理解するとともに、求職者支援の概要を含め、保護者等に説明できる。	講義内容の整理	45
10	労災保険制度・労働法制	労働災害とは何かを理解するとともに、企業における労災隠し等の要因の所在を理解することで、労働者としての正しい権利を行使できる。	講義内容の整理	45
11	社会保障給付の推移と諸課題	社会保障を取り巻く諸課題のうち、財源問題について理解し、他者に説明できる。	講義内容の整理	45
12	社会福祉制度	社会保険制度と社会福祉制度の違いを理解し、保険制度になじまない福祉の諸制度の必要性と各制度の概要を説明できる。	講義内容の整理	45
13	公的扶助制度・生活困窮者支援	公的扶助の役割と、要保護状態となる恐れのある者に対する生活困窮者支援について説明できる。	講義内容の整理	45
14	社会的排除の実態と展望	社会保障の制度疲労等の欠陥について理解し、今後のあり方について自身の考え方を説明できる。	講義内容の整理	45
15	まとめ	自身の生活設計における社会保障との関わりを説明できるとともに、保護者等に対し、適切な助言を行うことができる。	講義内容の整理	45